聖徒の道

SEITO-NO-MICHI

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第七巻第七号　一九六三年七月一日発行

7　1963

末日聖徒イエス・キリスト教会

The Seito no Michi

Volume 7, July 1963, Number 7

In this Issue

A Prophet's Voice: Reverence ..... President David O. McKay···418

President's Message ..... President Dwayne N. Andersen···421

Your Question: Why was not Paul ordained by Peter to the Apostleshis?
..... President Joseph Fielding Smith···425

Essentials in Church History (37) ..... President Joseph Fielding Smith···427

My convert ..... Dr. James R. Surver···434

Northern guardian faithful Katanuma Family ..... Brothey Masao Watabe···443

Church Articles 450

Genealogy Guide (for August)

Sunday School Guide for J.S.S. (for Agust)

Sunday School Guide (for August)

MIA Leader (for August)

Aaronic Priesthood: Branch Teaching Lesson (for Augusr) 450

Mission Mother's Message 465

Relief Society Lessons 464

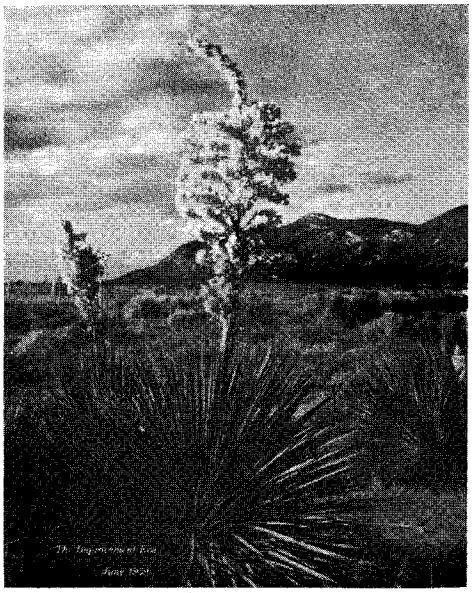
Literature—Visiting Teacher Message

Mission Headquarters News 447

Instructions from Mission clerk 424

Branch News ..... Elder Wade Fillmore···439

GOSPEL IN ENGLISH ..... Sister Smith···474



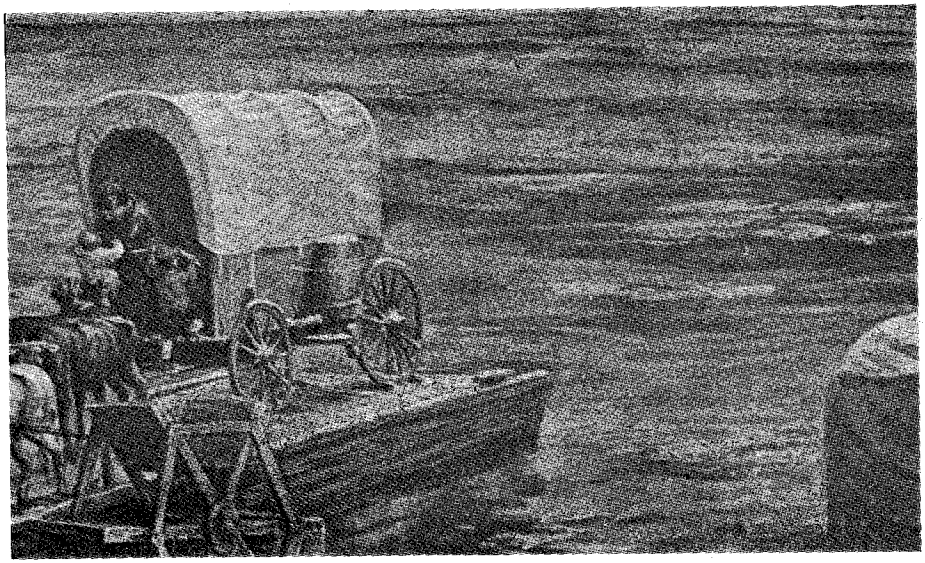
聖徒の道

第七巻
第七号

一九六三年七月号

「おおこの四十エーカーの土地、ここに、神殿を建てるのだ。そして東西南北に正方形の街を造るのだ」。

一八四七年七月二十八日、未開のソルト・レーク盆地にモルモンの聖徒が始めて足を踏み入れて四日目にブリガムヤングはこの地に立って叫んだ。今や世紀の殿堂が青空高く雲をつき、美しいシオンの都が世界の人の注目の内に展開されているのである。



目次　聖徒の道　一九六三年七月号

予言者のことば
うやまいのこころ
大管長　デビド・O・マッケイ……418

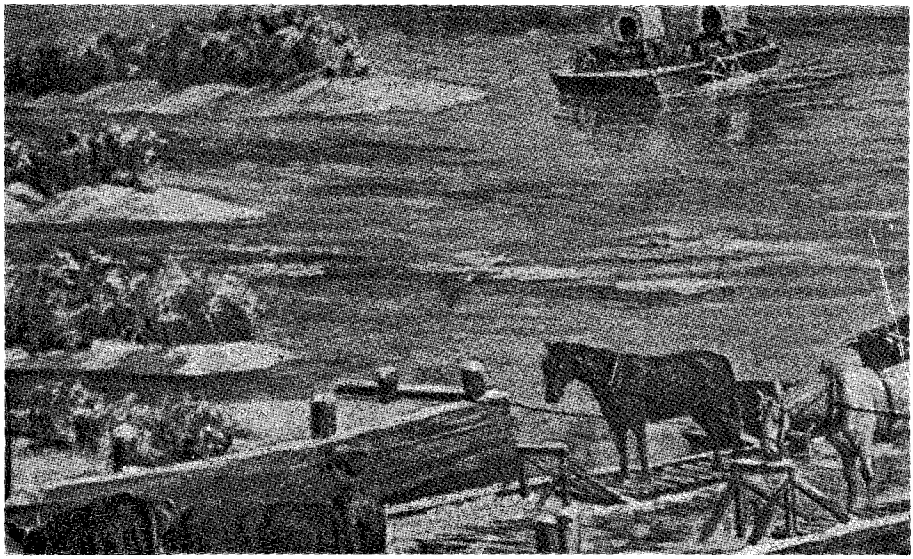
伝道部長メッセージ
ダワエン・N・アンダーセン……421

質疑応答
パウロはなぜペテロによって使徒に按手聖任されなかったか
ジョセフ・フィールディング・スミス長老……425

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋
ジョセフ・フィールディング・スミス長老……427

私の改宗
ジェームス・R・サーヴァー博士……434

北の守り。信仰の潟沼一家
渡部正雄……443



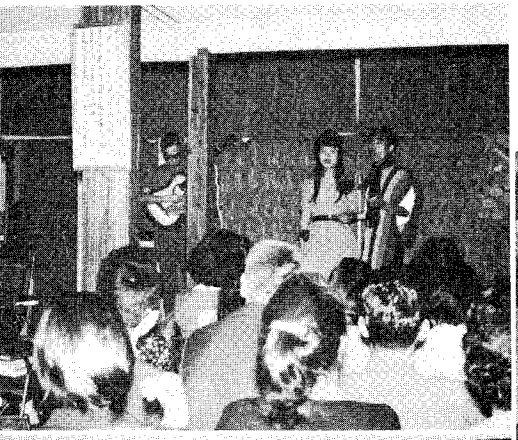
アロン神権ブランチ・ティーチング・レッスン（七月用）（八月用）……450
メルケゼデク神権第一、第二長老定員会……451
系図の道しるべ（八月用）……453
子供の日曜学校ガイド（八月用）……454
日曜学校ガイド（八月用）……456
MIAリーダー（八月用）……461

伝道部扶助協会長メッセージ……ペギー・ヒュイシ・アンダーセン……465
ジョセフ・スミスの生涯(9)（扶助協会文学用レッスン）……467
扶助協会レッスン……472

伝道部書記指示　伝道部書記　フイルモア長老……424
伝道本部だより……447
支部だより……439
英会話テキスト……474

第二長老定員会会員　　5月5日西中央地方部大会の時

柳井支部会員　　2月広島で開かれた地区大会の時



東京南支部支部大会　　5月
支部だより記事参照。

予言者のことば

うやまいのこころ

大管長　デビド・O・マッケイ

うやまいのこころは、人間の弱さでなく人間の強さを示す美しい徳の一つである。人間の性質のうちで愛が最高の美徳であると言い、また互いの同情もこれと同じ美徳であると言うが、私はうやまいのこころを愛の次に置くつもりはない。うやまいのこころとは愛が加わっている深い尊敬の念である。言葉をかえて言えば「心にうったえることもごもの感情から成る複雑な情緒」ということができる。

うやまいのこころの中には尊敬、服従、敬意、尊重などの念が含まれている。それであるから、これらの念がいくぶんかなくては何の好意も、ていねいも、人の気もちを思いやることも人の権利を尊ぶこともないであろう。うやまいのこころは宗教のもとになる美しい徳である。

神と神聖な事物をうやまい尊ぶということはすぐれた人のもつおもな特性である。つまらぬ人でも成功することがあるが、

うやまいのこころがなかったらこれらの人はけっしてすぐれた人になることはできない。すぐれた人にはうやまいのこころがある。すぐれた人は神をうやまうこころがあり、神とともにあるすべてのことをうやまうこころがある。従っていま世界が直面している大問題は、人々が神と御子とイエス・キリストの福音に対してとっている態度である。

ついさきごろまで、われわれは「鉄のカーテン」のすぐそばに立っていた。人はあのベルリンを覆っている暗いかげを感ずることができた。共産主義者は古い中華民国のキリスト教とキリストを信ずる信仰とをおしつぶしてしまった。神をうやまうこころと神を信ずる信仰とは、今共産主義者が征服している国に属しているひじょうに多くの国民のこころから消えつつある。これをもっても、あのイデオロギーがあやまっているという充分な証拠になるのである。

私はかってインドにある「タジ・マハール」をおとずれたことがある。これはインド、モガル帝国の皇帝シャー・ジェハーンが亡き妃マンタズ・マハールを記念するために建てた廟であって、多くの人々は世界第一の美しい建物「建築の中の詩」であると言っている。「タジ・マハール」は礼拝堂ではなくて、実は墳墓である。私は世界各地の伝道部を訪問していた際、ヒュー・J・カノン兄弟と一しょにここをたずねた。私たちとおなじくそこをたずねる外国人や旅行者がそこに大勢いたけれども、みな小声で話し合っていた。まったくまわりの状態がこれらの人にうやまいの精神をおこさせていた。旅行者たちがけいけんの念を以って行動していたのは、この建物が不信仰やさわがしさを目的としていない或る高い目的のために建てられたものであることを感じていたからであった。

私たちの教会には多くの建物があるが、みな「父なる神」とまじわるためにたてられている。私は騒々しいという感じを心に抱いて教会堂へ入って行く人などを考えてみることもできない。

私たちは主を礼拝するために教会堂へ入る。私たちは「主のみたま」を分けていただきたいと思っている。そして「主のみたま」を分けていただくとき、私たちの霊の力が強くなるのである。主が私たちに教えて下さった祈りの最初の文言は「天にましますわれらの父よ、御名があがめられますように」（マタイによる福音書六〇九）である。「あがめる」ということば一つにうやまいのこころがともなっており、うやまいというのはこころのもつ最も神聖な性質の一つである。もしもあなたがこの世の王の一人に会おうとしているなら、あなたは王に会うときどんな態度をとらねばならぬか、どんな服装をせねばならぬかなどについて、いくつかの疑問をもつことであろう。おそらくあなたは人にまできいたりお金までつかったりして正しい服装をととのえることであろう。このような場合、あなたはひじょうにうやまっている君主の前に進み出ようとしているのであるが、その人はこの世の支配者であるにすぎない。

しかし、あなたが教会の建物の中へ入るときは、あなたは「父なる神」の前に進み出ているのである。それであるから、あなたはそう考えるだけで、あなたが「父なる神」の前に正しくかつふさわしく席につくことができるよう、心の思いもここ

ろざしも、また服装さえもととのえなくてはならないという気を充分におこすはずである。

礼拝の集りでどたばたとさわぐのはよくないということは、ことばでもっても行いでもっても子供たちによく教えこんでおかなくてはいけない。説教中にそばの人と話をしたりするのは、たとえささやき声であっても失礼なことである、また礼拝の集りが終わらないうちに席を立って出てゆくのは、最も礼を失った行いであるということは、子供の時代によく心に刻みつけておき、青年の時代になったらまた心に強く感じさせるようにするべきである。

教室のなかでは、子供たちは教えを受け、自由に討論し、自由に話し、自由にクラス活動に参加するべきである。しかし、どの生徒も押したり、おろかなつまらないことを言ったりしてほかの生徒の注意をそらせる権利をもってはいない。教室の中で正しく秩序を守るということは、克己の原則を若い人々の心と生活にしみこませるために肝要なことである。若い人々は話をしたいし、ささやきたいが、それは誰かの静かな心を乱すからしてはならないのである。騒ぎをする子供は、騒ぐことによって害を受ける。このような子供は、社会へでたときにそこでは罰をうけないではできない事があるのを学ぶべきである。彼は仲間の権利を侵害することはできない。

集会の場所が質素な教会堂であろうと、それが「建築の中の詩」と言われるみごとな建物であろうと、われらの礼拝すべき御方に対する態度や近づき方には何らのかわりがない。われらの礼拝すべき御方がそこにましますことを知るならば、われらの行いを行為の鑑とするに充分であるにちがいない。

家庭生活の中にある三つの影響力は子供たちにうやまいのこころを目覚めさせ、またうやまいの態度も念も向上させるための力になる。これらは親切な指導と、両親がお互いに対してまた子供たちに対して示す礼儀と、子供たちも一しょに加わる祈りの三つである。子供たちにこれらの教訓をまだ年のゆかないうちにおぼえさせなさい。

神のみ名をうやまい尊ぶことは、どこの家庭に於いてもまず第一に守らなければならない大切な教えである。わが教会員の家庭では、神をけがすことばをけっして出してはならない。神をけがすことばを出すのはよくないことである。神のみ名をむやみに出すことは、神をうやまわないしわざである。どんなに相手が自分を怒らせたからといっても、神のみ名をけがすことばを出してよいとはいえない。いつでもうやまいのこころを抱き、いつでもけいけんな行いをしようではないか。

もしも人のこころにもう少し多くうやまいのこころがあるならば、人のこころに罪や悲しみを思う余地がもっと少なくなり、楽しさやよろこびを感ずる余地がもっと多くなることであろう。

うやまいのこころという、多くの光りかがやく美徳の中の珠玉であるこの美徳を、もっと心の中で大切にし、もっとしばしば行いにあらわし、もっと目につくようにすることは、あらゆる役員、あらゆる両親およびあらゆる教会員がもっとも一致して努力をかたむけ、もっとも祈りをして努力をかたむける価値のある計画である。

伝道部長メッセージ

予言者イザヤは、末日に起こる或大いなることを見ることを主に許されたのでありました。彼はあらゆる時代を通じての最も力ある書物の出で来たることを見る特権を与えられたのでありました。

"それゆえ、このすべての幻は、あなたがたには封じた書物の言葉のようになり、人々はこれを読むことのできる者にわたして「これを読んでください」と言えば、「これは封じてあるから読むことができない」と彼は云う。またその書物を読むことのできない者にわたして「これを読んでください」と言えば、「読むことはできない」と彼は云う。

主は言われた。

この民は口をもってわたしに近づき、

くちびるをもってわたしを敬うけれども

伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

その心はわたしから遠く離れ、
彼らのわたしをかしこみ恐れるのは、
そらで覚えた人の戒めによるのである。
それゆえ、見よ、わたしはこの民に
再び驚くべきわざを行なう。
それは不思議な驚くべきわざである。
彼らのうちの賢い人の知恵は滅び
さとい人の知識は隠される

イザヤ書　二十九〇十一―十四

奇しきみわざの一つはモルモン経のもたらされることであります。この書物の能力は偉大であります。それは現代に神の生きてましますことを科学的に証明する力をそなえております。私は貴方が更に検討する為又貴方の証を強化してそれを求道者又は貴方の友だちに分かち与えてもらう為に、この事に就いて述べて見たいと思います。

モルモン経の偉大さは、聖書と比較した時にのみ完全に理解することが出来るのであります。モルモン経がもたらされる迄、神に就いての人の知識は聖書からのみ得られたのであります。私たちは聖書の中に見られる記事を大きく歴史的な部分と啓示された神の言葉の二組に分類することが出来ます。

歴史的な部分
1　シナイ山
2　エリコ
3　エルサレム
4　ガラリヤ湖
5　ヨルダン河
6　十二支族

啓示された神の言葉
1　神の性質
2　人間の神に対する関係
3　十誡
4　福音（八福の教え）
5　キリストの使命と目的

聖書の歴史的な部分は既に調査され、これらの場所が実在することは証明されて来ました。このように聖書は歴史的に真実なものであります。然しながら無神論者は単に歴史的に真実であることが、啓示された神の言葉として含まれている教義をも真実であると証明することにはならないと申します。聖書の弱点は人によって書かれ、人によって保存され、人によって飜訳されたことにあります。啓示された神の言葉に組み分けされた部分は、信仰によってのみ、受け入れられねばならないのであります。

モルモン経の立場はこれと相違しております。モルモン経も同様に二組に分類されます。

歴史的部分
1　エルサレムから来た
2　三つの主な移民
3　ヘブライ語及びエジプト語の知識
4　人々は金属を用いた
5　馬も用いた
6　セメントも用いた
7　ゼラヘムラ市
8　白色及び暗黒の皮膚の民
9　キリスト・アダム及びノアに就いての知識
10　高度な文明

啓示された神の言葉
1　神の性質

2　人の神に対する関係
3　十誡
4　福音（八福の教え）
5　キリストの使命と目的

モルモン経の立場の優秀な理由は、それが人によって書かれたけれども神によって紀元四百二十一年から一千八百二十一年迄、保存されて来たこと及び神の能力によって飜訳されたことにあります。神からの天の使者モロナイがモルモン経の金版をジョセフ・スミスに手渡したのであります。ジョセフ・スミスは、神の能力によって約六十日間で飜訳したのであります。教会の飜訳者佐藤竜猪兄弟は、モルモン経を文語から口語に改訂するだけで約三年間、かかったと私に告げました。しかも彼は知り且つ理解している言葉で働らいたのでした。ジョセフ・スミスはモルモン経の中に書かれた言葉を知らなかったのであります。ですからジョセフ・スミスがモルモン経を訳した速度と言うものは、それが神の能力によってなされたと云うことによってのみ答えられるのであります。

前述のモルモン経のすべての歴史的部分は、今日、科学者によって証明されました。真に求めている人は、モルモン経が歴史的に真実なものであることを自ら証明することが出来ます。最も決定的な証拠はリーハイの夢（ニーファイ第一書　八〇十―三十五）の詳細を示す彫刻画のある中部アメリカで発見された大きな石であります。百三十三年の間、誰もモルモン経を反証することが出来なかったのでありますが中部及び南アメリカに遺跡が発見されるに及んで、モルモン経の歴史的部分の真実であることが、次から次へと証明されて行ったのであります。

若しも科学者がモルモン経が歴史的に真実であると証明するならばモルモン経の中に含まれている啓示された神の言葉も又真実なものであります。何となればその書物は神によって保存され、取り出だされて神の能力によって飜訳されたからであります。このようにしてモルモン経は、科学的に神の実在を証明しているのであります。それは今日、世の中で最も強力な書物であります。若しもモルモン経が真実なものであれば聖書も又真実であります。何となればそれらは同じ啓示された、神の言葉を含んでいるからであります。

科学的な証拠によってモルモン経の真実なことを証明すると同時に、私たちは又心の内に確信と云うものを得なければなりません。これはモロナイ書第十章四節にすすめてあるところに従って祈りを以って学ぶことであります。〝またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。〟

私たちはモルモン経の能力を自覚して、それを神が生き給い、その王国とこの末日に私たちの救主の下に帰る迄、この地上に続くであろう教会を打ち建てる為に、現代の予言者に語り給うことを証明する為に用いようではありませんか。

伝道本部書記指示

今回は5つのことを指示します。

1. Certifiate of Membership のうしろの Remarks の欄に本籍地の住所を漢字とローマ字で必ず記入して下さい。

2. 献金用レシート

本部から送ったレシートの中で今使っていないレシート（すなわち現在使っているレシートではなくて、昨年中に受取って、まだ使ってないレシート）がありましたらこれを本部に送り返して下さい。青と白のレシートを VOID にする時必ずその白いレシートを本部に返して下さい。なおレシートを本部に送る時には、別々にやぶいて順番に上から下までそろえて下さい。

3. 維 持 費

FD 64 報告書の本当の目的は支部の使う金とその支部の収入を報告することです。ですから宣教師のお金は（献金以外）この報告書に入っていてはなりません。それから支部以外の目的の目的に使うお金はFD64に入らないことです。要するに宣教師と支部を全然別々にしていただきたいです。

4. 支部の銀行かんじようの名前は（末日聖徒イエス・キリスト教会）_____支部。英語ですと The Church of Jesus Christ of Latter Day Saints_____Branch にしてください。支部長の名前を使わないことです。

5. 別郵便で送りましたお知らせ、すなわち富士銀行に変えること、聖徒の道の委員長を決めること、ＭＩＡの予算を出してもらうこと、この三つもよろしくおねがいします。

伝道本部書記　ウエイド・W・フィルモア長老

宗教法人法による指示

6月号聖徒の道「本部書記指示」の中にある次の点は宗教法人法によって次のように変更して下さい。

10. Budget Estimate	支部永久保存
11. Audet Report of Examination	〃
17. Branch Inventory	〃
18. Bank stetement	〃

パウロはなぜペテロによって使徒に按手聖任されなかったか

質疑応答

解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老

質　問。

パウロはなぜ使徒であったペテロ、ヤコブ、ヨハネから使徒に按手聖任されませんでしたか。パウロがガラテヤ人へ送った手紙の第一章をみると次のようにしるしてあります。「人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ」(101)。

また同章15節と16節でパウロは、神がわたしをお召しになったとき、わたしは血肉にも相談せず、また先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行った、とその点をはっきりさせています。それはパウロが実際にエルサレムへ行った三年前であって、エルサレムでパウロが会った使徒はペテロと主の兄弟であったヤコブとだけでありました。エルサレムを去ってパウロはシリヤとキリキヤへまいりましたが、ユダヤの教会員はまだパウロの顔を見たこともなく、以前に破壊していた信仰を今度は人に宣べ伝えているということを耳にしただけでした。

それから14年たって、パウロはテトスと当時使徒であったバルナバと共にエルサレムへ行き、会議で自分の考えを人々に示しました。しかし人々が、ペテロに割礼の福音がゆだねられたのを認めたとき、ヤコブとケパとヨハネとはパウロとバルナバに交りの手をさしのべました。そしてパウロとバルナバが異邦人に行くことに同意しました。いま私たちは「福音の新しい神権の時代」（異邦人に福音を説く権能と鍵）がパウロにゆだねられたかしらと思っています。聖書にはこの考えを支持すると思われる数々の聖句があります」。

解　答。

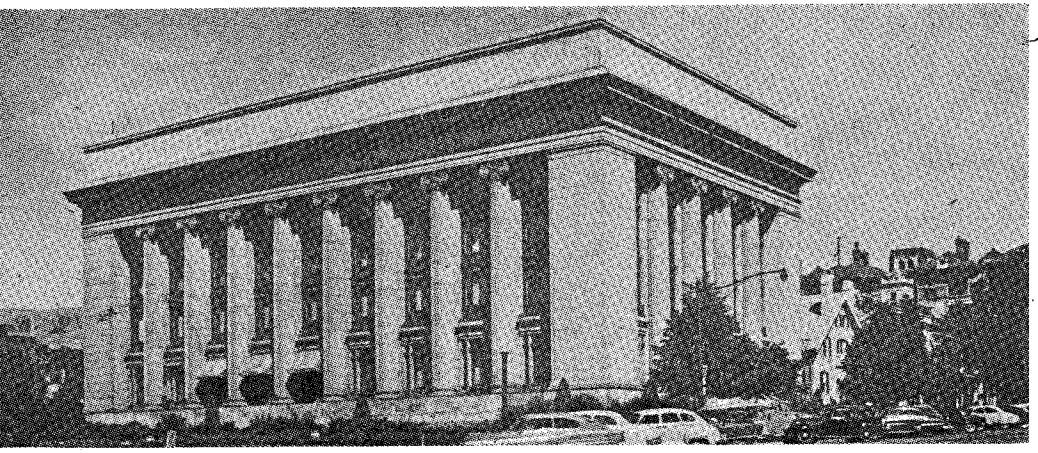
あいにく、われわれに伝えられているいろいろな記録はきわめて断片的である。われわれは首尾一貫した話を一つももっていない。パウロはそのあやまった道から回心をさせた偉大な示現を受けた時から、主の使命を実際にその目で見た証人になった。しかしながら、この示現を見たことだけでパウロは使徒となる資格を得たわけではない。パウロが為さねばならぬことがたくさんあった。第一に彼は罪をゆるされるためにバプテスマを受け、会員として確認されなければならなかった。それから彼はアラビヤへひきこもったが、これは疑いもなく勉学と準備と祈りの時期であったにちがいない。その後、彼はけんそんと熱心とをもって導きと教えを施す働きを始めるためにかえってきて、多くの兄弟たちの努力をはるかにこえる努力をして働いた。彼は、その誠実さと神の御子の使命のために完全に回心をして働くことを兄弟たちに確信させる時を兄弟たちと一しょにすごしたことがあるにちがいない。われわれは多くの大切なこまかい点についてはなはだ知識に欠けていて、これは昔から今まで伝わっておらず、パウロがいつどこで按手聖任されたか全くわかっていない。これはわれわれのもっている知識が断片的なものであることを思えば、なにも不思議ではない。パウロだけでなく、バルナバや、主の兄弟であるヤコブが使徒に聖任された時について何の記録ものこっていない。ルカが忠実にしるした記録がなかったなら、パウロのいろいろな活動についてわれわれはわずかしか知る機会がなかったであろう。これは始めから十二使徒会の会員であったペテロ、ヨハネその他の人々についてもおなじである。パウロはその兄弟たちと親しくまじわる時があり、神の霊感に従いこれらの兄弟たちの議決によってパウロに使徒職がさずけられたと推定しても正しいであろう。もしわれわれが記録をもっていたなら、バルナバ主の兄弟であったヤコブ、そのほかの人たちも、これらの兄弟たちによって按手聖任されたことは明らかに真実であろう。パウロが使徒たちの議決によらないで按手聖任を受けたということを信ずる正しい理由はない。ガラテヤ人への手紙、コリント人への手紙、エペソ人への手紙、コロサイ人への手紙、テモテへの手紙のはしがきで、人によってでなくて神によって召されたといっているパウロのことばに何の不思議もない。いつどうしてパウロが按手聖任されたか明らかにされていないが、これはバルナバについてもその通りである。大切なのはパウロがペテロ、ヤコブ、ヨハネそのほかの使徒たちとおなじように神の召しによって権能を受けたことである。これらの使徒の中で、一人でも人間の意志によって権能を得た者はない。われわれはみな、もっと明らかにされていたならとねがうことができるであろうが、主なる神はすでに彼らが導きと教えを施こすことを認可しておいでになり、われわれはそれが真実であることを知っている。

ヨハネの兄弟であるヤコブは、わずかの間導きと教えを施しただけで切り倒されて殉教したことをわれわれは知っている。最初に聖任されたこのほかの十二使徒たちの活動は、神秘の中に包まれていてわれわれにわからない。わかっているのはこれらの人々が忠実であって、「黙示者ヨハネ」だけをのこして最初に聖任された十二使徒もパウロもみな殉教の死をとげた形跡があるということである。「黙示者ヨハネ」は命を保って、ヨハネが生まれる六百年前にニーファイに与えられた啓示の通り、主の再臨まで導きと教えを施すわざをつづけるのである。

信ずべき事実が報道されていないために、人はこれらの使徒たちに関し、容易に誤らせられてまちがった結論に達する。パウロの場合には、彼が伝道の働きをするにあたってすぐれた書記を伴っていたので、われわれはパウロの旅行と導きと教えを施す働きについてもっとよく知っている。最初に聖任された十二使徒はその導きと教えを施す働らきをしているうちに、評議の会のために集まる機会をほとんどもたなかったことは明らかである。当時の情況は今日一般にある情況とひじょうにちがっていた。パウロとバルナバ、またはシラスとそのほかの兄弟たちが国々の民の中へ出て行くときには、徒歩で行かなければならなかった。そして時々はロバの背に乗

（四三三頁に続く）

ジョセフ・フィールディング・スミス著



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋　37

第三部　オハイオおよびミズーリ時代

第二十二章　クレー郡の人々聖徒を受け入れず——背教と悲しみ

（千八百三十六年——千八百三十七年）

三、聖徒らの返答。　それから三日後、千八百三十六年七月一日に聖徒らは評議会を開いて返答を一文にまとめた。聖徒らはクレー郡の人々の要求をいれたときには財産の損失をますにもかかわらず、彼らの要求を受け入れることにした。その上、二年半以上クレー郡に滞在したあいだに市民たちから受けた手厚い待遇に対して感謝の意をあらわした。クレー郡の市民の中の多くの人々は、モルモン教徒に同情をして、クレー郡からひきあげるとき物質上の援助を提供して聖徒たちを助けた。しかし、この徹底的な処置をとったのは、彼らが心から思っていたように、クレー郡のために最も利益となるような行動をとったのであると言おうではないか。

教会の大管長会がこの最後通牒のことを聞いたとき、大管長会はミズーリの聖徒たちがとった処置を完全に承認し、クレー郡委員会へさし出した手紙の中で承認した事実を委員会へ知らせた。またその機会を利用して、委員会の人々が心して読むならば、その正義感と同情心とを動かすはずである多くのことをけんそんな心持ちで知らせた。

四、カルドウェル郡組織される。　この決定に従って、聖徒たちは事情がゆるせばすぐにクレー郡から移住をしはじめ、クレー郡の北に当たる未開拓の地域にあるショール・クリークにおちついた。

聖徒たちはその地方にいたわずかな入植者たちのもっていた土地を買い入れて彼らの家を建てはじめた。そして千八百三十六年の十二月までには、かなりの数の聖徒が居を定めるようになったので、一つの郡を組織したいという請願が知事のもとに出された。この請願は十二月のなかばころに許可されたので、今や正式に郡になったことと将来平和に住むことができるという見通しがついたために、モルモンの入植に一層拍車がかけられ、カルドウェル郡は「ヨナのひさごのように」急に大きくなった。

五、カートランド安全協会。　一方、カートランドではしばらくの間万事好都合に進展していたので聖徒たちは多くのめぐみを受けた。しかしながら、このような状態はいつまでもつづかなかった。千八百三十六年の十一月二日に「カートランド安全協会銀行」を組織するための契約条項が作製されたが、オハイオ州当局は偏見のためにこれに対する免許を与えなかったので、その件は千八百三十七年の一月までそのままにしておかれ、一月になってようやく法律の規定する範囲内で一つの協会が組織された。そして、開始された事業のために株が募集された。千八百三十七年という年はアメリカ全土にわたって投機が盛んに行なわれていた。そして、カートランドにおける聖徒たちにもこの投機の風潮に乗った人たちがあったが、いくつかの事業の思わくは期待通りに行かなかった。教会の会員のなかにも事業に金を出している人たちが多くあった。「カートランド安全協会」の株をもっていた教会の大幹部そのほかおもだった兄弟たちは、「安全協会」が発行した手形に対し持株の高に応じてすべて買戻しの責めを負うことを誓っていたが、この「安全協会」には州政府の発行する免許がなかったから、ほかの銀行は「安全協会」振出しの手形をひきとることを拒絶した。この協会の会計係は、かって予言者ジョセフ・スミスの書記をしたことがあり、教会の忠実な会員であったが、不徳義な行為をしていたことが発見された。彼は見せかけの悔い改めと告白をしてその罪を赦され、教会員としての地位を保っていたが、まことの信仰を再びとり返すことなくまもなく教会から離れてしまった。彼は協会の基金を二万五千ドルも着服していたので、協会は財政上危険な状態に追いこまれていた。協会の経営がこのような有様であったので、予言者は警告を発したけれども聞かれなかった。それで千八百三十七年の夏、予言者はその事業から手を引き、役目を辞してすべての株を処分し、それまで五ケ月間の経験でけっこうである「教会だけでなく全国民にもめぐみを与えるために正義の上にたてられたこの種の公共団体は、このような暗黒と思わくと悪事の横行している時代には一つもその運営をつづけることを許されないであろう」と言った。

六、千八百三十七年に起こった経済界の恐慌。　この時千八百三十七年の恐慌がアメリカ合衆国の全土をおそって、三月と四月だけでもニューヨーク市における支払停止は一億ドル以上にのぼった。そして無数の商社と銀行がどうにも動きがとれなくなった。経営がなっていなかった「カートランド安全協会」が、ほかとおなじように支払停止をせざるを得なくなったのはまったく当然なことであった。

七、このほかに経済上の困難を生じた原因。　このほかにも聖徒たちの中に経済上の圧迫を起こし、また教会の大きな負担となった原因がいくつもあったが、それらは敵の手によって加えられた多くの苦しみとカートランド神殿建築に附随する諸経費であった。これ

に加えるに、福音を信じて教会へ入った貧しい、暮しに困っている人々がカートランドへやってきて援助と必要な住居とを求めた。そこで、これらの人々が家族をよびよせるために家が持てるよう、これら貧困者のために広大な土地を得るための契約が結ばれた。しかし、この土地に入った人たちは、人間が誰でもっている怠慢であるが、かならずしもすぐに土地の代金を払ってくれなかった。

八、背教と悲しみ。　このような状態の結果として背教が急速に起こった。そして予言者のことばによると「教会をただちに倒して息の根をとめてしまうために、この世と地獄がとくに総力を結集し全力をあげてかかってきたかのように」思われた。教会外部の敵は教会内部の背教者たちの助けを借りて、予言者が教会という共同社会の中ばかりでなく、アメリカ全土の中にあるあらゆる悪の原因となる元じめであるかのように、一致して予言者を倒す企てをめぐらした。しかし、もしも聖徒たちが予言者の勧告に従っていたならば教会にふりかかった大ていの悪は避けられたであろうというのが真相であった。背教は、教会内のあらゆる評議会の中にもあらわれ、かって教会に忠実であったおもだった兄弟たちの多くが背教者の中に入った。

九、心の清い者は堪えることができる。　これよりたった一年前に神殿の中であのすばらしいあらわれに接した人々の中、多くの者がこのような苦々しい精神をもっている現在のみじめな状態は考えても不思議というほかはない。これらの者は、すでに受けた多くのめぐみと、すばらしい示現と、もしも導きと教えを施す業に忠実であるならば果されるにちがいない主の偉大な約束とを忘れてしまったようであった。平和と和合とを楽しんだちょっとの間に、投機の精神と富を得たいというねがいが多くの人々の心をくもらせて彼らの身も心もかつての兄弟たちに対するはげしい憎悪でいっぱいになってしまった。かつて自分が大切にして愛していた人々、また自分を愛すると人前ではっきり言った。人々からジョセフ・スミスは「堕落予言者」と言われた。その中には、痛烈なにくしみと心の暗黒から予言者の命をねらった者さえあった。予言者の幸福をねがい予言者の味方になって語った人たちはあざけり笑われひじょうにけいべつをされた。この時こそ、人々のこころがためされ、自ら清く保って世の人の罪によってけがされなかった人たちだけがこころみに堪えることができた時であった。教会の会員たちに予言者を見すてさせるために、あらゆる力を用いて会員を圧迫した。それがために、多くの善い人々が網の中にひきずりこまれ、そのほかの人々はようやくのがれることができたが、心からのけんそんと悔改めによってだけ、多くの人々をつれ去ったおそろしいほろびから救われることができた。ブリガム・ヤング、ヒーバー・シー・キンボール、ウィルフォード・ウッドラフおよびジョン・テイラー、ウィラードリチャーズを含むその他の人々は、教会へ入ってから間もないころであったが、これらの人々が兇悪な反対の精神に対抗して予言者ジョセフを擁護して気立く立ったのは正にこの衆人離反の時であった。

十、予言者ミズーリを訪れる。　千八百三十七年の九月に、大管長会のジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人は、ミズーリにいる聖徒たちが集合する場所を定めるためにミズーリへ行った。このとき、カートランドから来たそのほかの兄弟たちも二人と一しょに行った。一行は十一月の始めころにカルドウエル郡に着き、す

ぐさま聖徒たちの住む場所についてその地の長老たちと評議に入った。この時評議にあずかったのはジョセフ・スミス、シドニー・リグドン、ハイラム・スミス、トーマス・B・マーシュ、ウィリヤムE・マクレリン、ライマン・E・ジョンソンおよびオハイオから来たウィリヤム・スミス等の人々であった。このほかウィリヤム・W・フェルプスを会長とする、ファーウェストにおける教会の高等評議員会の会員もこれに加わった。そして、この土地には余地があるから、ほかの土地から聖徒たちを招いて居住させるのは望ましいことであるときまった。すでに設計がすんで具体化しているファーウェストの市が集合の中心地に選ばれた。しかし、すでにきまっている通り主の宮をファーウェストに建てることは、主がそのみこころを啓示して開始させたもうまで延期することに決した。

十一、ジェルシャ・スミスの死。　ハイラム・スミスがファーウェストで聖徒を居住させるために助けを与えているうちに悲しい出来事が起こった。それは彼の妻ジェルーシャ・バルデン・スミスの亡くなったことであった。時に千八百三十七年十月三日。彼女が死ぬ間ぎわに五人のおさない子供たちに言いのこしたのは「お父さんが帰ってきたら、神さまがお母さんを天のお家へつれておいでになるから、子供たちをおねがいしますとお母さんが言ったと言いなさいよ」ということばであった。

十二、予言者を廃しようとする企て。　大管長会のジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、十二月の十日にミズーリからカートランドへもどってきた。もどってきて見ると、二人がるすにしていたあいだに、ワーレン・パリッシュ、ジョン・エフ・ボイントン、ルーク・エス・ジョンソン、ジョセフ・コー、シルヴェスター・スミスそのほかおもだった評議員たちが一致して教会を倒そうとしていた。この中には早いころに反抗の精神を示したことがあったけれども悔改めをして見せたのでもと通りにしてもらっていた人々があった。しかしながら、そのこころの中から悪がすっかりなくなっていたのではなかった。中でもワーレン・パリッシュは「七十人」であって、つい二・三ケ月前には予言者から最も信任をされた、予言者の最も親密な最も大切な友人の一人であった。それが、罪を犯したために、今では予言者を最も憎む敵の一人となり、予言者をその位からしりぞけてかわりにデビド・ホイットマーを立てようとする運動の首謀者になっていた。これらのともがらは、神殿を自分たちのものであると主張してその中で度々集会を開き、暴力にうったえてまで彼らの争いをつづけた。このようにして、ついさきごろ主が喜んで受けたもうたカートランド神殿は、その神聖をけがされてしまったのでもはや主の御名にささげられた神聖な宮でなくなってしまった。

十三、英国伝道部。　このような試錬と艱難に逢っている時代に、主のみことばがジョセフ・スミスに下って教会を救うために何かをしなくてはならないと仰せになった。その解決法とは大英帝国に福音を伝えることであった。六月の四日（日曜日）に予言者はカートランド神殿でヒーバー・シー・キンボールに近づき彼に耳うちして言った。「ヒーバー兄弟よ、主のみたまがいま私にささやいて『わがしもべヒーバーを英国につかわしてわが福音を宣べ伝えさせ、かくして救いの扉をかの国民に開かせよ』と仰せになった」と。

これを聞いたキンボール兄弟は自分の弱さを感じていたから、ブリガム・ヤング長老も共に行けないだろうかとたずねた。予言者は

これに対して、主はブリガム・ヤングのかわりとして何かほかのものを持っておりたもうと答えた。こうした会話につづいてキンボール長老は大英諸島に偉大なはたらきするため特に任命をされたのであるが、これは教会が外国で行なった最初の伝道となったのである。このとき大管長会がキンボール長老を特に任命をしている最中に、十二使徒評議会の会員であったオルソン・ハイドが入ってきて自分の同僚に祝福がさずけられているのをきき、自分にもまたそのはたらきを助ける特権を授けてもらえないだろうかとたずねた。ハイド長老はそれまで投機をしたために心が乱されていた仲間の一人であった。今や彼のこころは柔らぎ自分のあやまちをみとめて祝福を与えられんことをねがった。彼のささげものは受け入れられて、大英帝国に宣教師としてはたらくため特に任命をされたのであった。

十四、カナダにおけるはたらき。 長老たちを大英帝国へ送ろうとする動きは、カナダにおけるはたらきから生じた自然の結果であった。前から数人の長老たちはカナダへ旅行をしてそこで福音を宣べ伝えていた。オルソン・プラット長老が始めてカナダに福音を宣べ伝えたが時に千八百三十三年であった。その年の秋には予言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人が、少しの間中部カナダ（今のオンタリオ地方）へ福音の伝道に行って多くの改宗者を得た。下って千八百三十六年には、パーレー・P・プラット長老がトロント市およびその周囲のいなかへ行って福音を宣べ伝えすばらしい成功をおさめた。ジョン・テイラー長老（後に十二使徒評議員会の会員となり、さらに教会の第三代目大管長となった）が福音を信じたのは、この年その地に於いての出来事であった。また、プラット長老の説教によってジョセフ・フィールディングとその二人の女兄弟（その一人のメアリは数ケ月後にハイラム・スミスの妻になった。もう一人はマーシィ・R）がバプテスマを受けたのもこの地である。このほかカナダで福音を受けた人々はジョン・グットサン、ジョン・スナイダー、イサク・ラッセル等であった。これらの人々はすべて大英帝国にいる親戚友人と文通をしていたので、まことの教会が新大陸に創立されて大いに発展をしていることをこれらの人々に手紙で知らせた。このようにして英国伝道という来るべき出来事の準備ができていたのである。

十五、大英帝国へむけて出発する。 ウィラード・リチャーズ長老は大英帝国へ行くようにたのまれたので、千八百三十七年六月十二日にシドニー・リグドンとハイラム・スミスによってとくに任命された。またそのあくる日、ヒーバー・C・キンボール、オルソン・ハイド、ウィラード・リチャーズ等の長老および英国のハネドンから来た祭司のジョセフ・フィールディングは大英諸島に伝道をするためカートランドを出発した。ブリガム・ヤングその他の人々は、フェヤポートまで同行してこの一行を見送った。宣教師たちのこの小さな隊は後にイサク・ラッセル、ジョン・グットサン、ジョン・スナイダー等が加わってその数を増し、千八百三十七年六月の二十三日、この一隊は商船「ガリック号」に上船してリバプールへ向けて航海の途についた。そして、七月の二十日この「ガリック号」は無事マーセイ川に錨をおろしたのであった。これらの兄弟たちは上陸をするとすぐに、リバプールから約三十マイルのところにあるプレストンへ行った。すると、その日はちょうど国会議員の選挙日にあたり、また最近王位についたヴィクトリヤ女王は内閣を組織しよ

うとしていた。宣教師たちが客車から降り立ったとき、彼らの頭の上にある旗に「真理は常に勝つ」と金文字でしるしてあるのを見た。彼はこれをさいさきのよいしるしとして受けとったのであった。

ジョセフ・フィールディング長老にはゼームス・フィールディングという兄弟があって、プレストンに住み牧師をしていたので、宣教師たちは千八百三十七年七月二十三日の日曜日にこの牧師の説教を聞くために出かけた。すると礼拝のときにフィールディング師は、今日はアメリカから数人の宣教師が来ておられるから、午後にその方々の説教をききましょうと意外なことを発表した。宣教師たちはこの招待をうれしく受け入れて、まずキンボール長老が短い話をしつづいてハイド長老が話をした。その晩、フィールディング師は再びゲットサン兄弟とフィールディング兄弟に教壇から説教をさせた。これで英国に福音を伝える扉が開かれたのであった。

註。教会を救うために、大英帝国へ長老たちを派遣するという予言者ジョセフの受けた霊感が正しかったことは完全に証明された。それは伝道が開始されてから数ケ月のうちに何千人という人がバプテスマを受けて会員になったからである。このうちの多くはアメリカへ移住して教会の大黒柱となり、ひじょうに大きな支部がいくつも英国の各地にできあがった。

その次の水曜日（千八百三十七年七月二十六日）にもう一度集会がゼームス・フィールディング師の教会堂で開かれた。このときハイド長老とリチャーヅ長老とが説教をしたが会衆は大いに心をひかれた様子で、多くの人がその説教に心服してバプテスマを受けたいと申し出た。この有様を見ると、フィールディング師は自分の教会の信者が全部なくなってしまうことをおそれて、その後は自分の教会の扉をかたくとざして長老たちを中に入れず、以後全力をつくして宣教師たちのはたらきに反対をした。しかしながら「神の御国」のはたらきはすでに始まった。そして、長老たちのために足がかりはすでにできて、多くの人々から自宅で説教を聞きたいという招待を受けた。このようにして、はたらきは急速に全国にひろがり、多くの支部が組織されて、多くの人々がその罪を赦されて救われんことを求めた。

十六、「十二使徒」に下った啓示。　英国で始めて福音の説教が行なわれた当日、すなわち千八百三十七年七月二十三日に、主はジョセフ・スミスを通してトマス・ビー・マーシュとほかの十二使徒会々員に啓示をたまわった。そしてこれらの人々は「腰をひきからげて十字架をとり、救い主に従ってその羊を飼え」と命ぜられた。また主は「汝ら自らを高うするなかれ。而して、わが僕ベジョセフにそむくなかれ。そはまことに汝らに告ぐ、われは彼と共に在り、わが手は彼を護ればなり。されば汝らのために彼に与えたる鍵は、われの来るまで彼よりとり去らるることなかるべし」と仰せになった。

これはまことに時を得た警告であったというのは、その当時でさえ「十二使徒会」のある会員は、教会の敵とひそかに共謀をしていたからである。彼らの行動はそれからますます発展して、前にちょっと述べたようについにその年の暮れないうちに公然たる謀叛となった。

十七、フレデリック・G・ウィリヤムス職を免ぜられる。　千八百三十七年十一月七日、ファーウェストで開かれた長老たちの大会

で、会衆はフレデリック・G・ウィリヤムスを大管長会の副管長として支持することを拒絶した。そして、そのかわりにハイラム・スミスが任命された。フレデリック・G・ウィリヤムス、ライマン・E・ジョンソン、パーレー・P・プラット、ワーレン・パリッシュ等の人々は前から教会の高等評議員会へ出頭するよう召喚されていて、これらの人々には告訴が提起されていたのであるが、当の高等評議会の組織が不適当であったために何らの処置もとられていなかった。フレデリック・G・ウィリヤムスは、千八百三十七年の前半に投機を行ない財政上のもめ事があったために、多くの人々から心が離れ、教会からも離反するようになった。

十八、ブリガム・ヤング、カートランドを脱けて出る。 予言者ジョセフ・スミスに敵対する感情が千八百三十七年の暮も間近かになってひじょうに高まったために、カートランドで予言者の味方になって弁護する者は誰でも危険を覚悟しなければならなかった。千八百三十七年十二月二十二日の朝、ブリガム・ヤング長老はカートランドを離れた。これは教会の敵の怒りがはなはだしかったためである。ブリガム・ヤングはそれまでジョセフ・スミスは「いと高き神の予言者」である、背教者たちの主張するように罪を犯してもいなければ堕落もしていないと公然主張してやめなかったから、背教者たちは彼をただでは置かぬと言っていた。

以上が、千八百三十七年がまさに暮れようとするときのカートランドの形勢であった。

（四二六頁より続き）

り、地中海をわたるには舟に乗って行かねばならなかった。しかし、どの方法によるにせよ、当時の旅は骨のおれる、そして長い長い旅であった。彼らは友人にたのんで持って行ってもらうほかに通信の方法がなかった。パウロはその手紙の中に度々、友人の世話で知らせと挨拶を送るとしるしている。ペテロの手紙を見ると、彼はその中でパウロのことについて次のように言っている。

「愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるようにはげみなさい。また、わたしたちの主の寛容は救いのためであると思いなさい。このことは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、彼に与えられた知恵によって、あなたがたに書き送ったとおりである。彼はどの手紙にもこれらのことを述べている。その手紙の中には、ところどころ、わかりにくい箇所もあって、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈を施して自分で滅亡を招いている。愛する者たちよ、それだから、あなたがたはかねてから心がけているように、非道の者の惑わしにさそいこまれて、あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい」（ペテロの第二の手紙三〇十四―十七）。

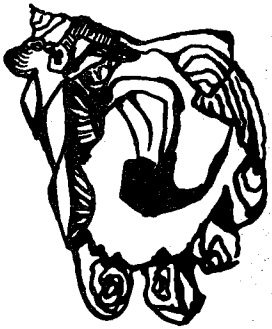
私の改宗

ジェームス・R・サーヴァー博士

（ジェームス・R・サーヴァー博士はカトリック信者で世界的な宗教学者として又神学及び語学の教授として二十五ケ年間、中華民国の南京大学で教鞭をとった。彼はアメリカ東北部の講演旅行をニューヨークを最後として帰途についたが、その途中、ソルト・レーク市に立ち寄った。ニューヨークで彼はその生涯の友人であるラジオで有名なカトリックの監督、ファルトン・シーン及びスペルマン枢機卿を訪れた。以下は彼自身によって語られた証である）。

私は南京から約三百哩離れた上海に講義に行った。そして教授である友人と共に夜の街に出て出発前に夜食をとる為或る飲食店に入った。私は入るとすぐ、黒い服を着た二人の若い青年が食卓に着いてサンドイッチを食べているのに気が着いた。私は中国に二十五年間も生活して来てこの近辺に住んでいる殆んどのアメリカ人を知っていたがこの二人の若者をまだ見たことがなかった。私は彼らがミルクを飲んでいるのに気がついたが、中国の夜の街で、そのような光景は見られないことであった。私は彼らが長く待たされているのでその場しのぎにミルクを飲んでいるのではないかと思い友人に同国人のよしみで何か出来ることなら援けてやりたいからと話して彼らの食卓に近寄って行った。そして私は彼らに何か飲物をお取りしましょうかと呼びかけ、ミルクを指して、もしよかったらコーヒーでも、と言うと彼らはコーヒーも飲まないと答えた。そこで私は貴方たちの嗜好は何ですか、若し私で出来ることでしたら何でもお手伝いしましょうと言うと驚いたことには、彼らはモルモンの宣教師でパレスタインで二ケ年間の伝道を終えて帰国の途中であると告げられた。そこで私は私も同様の仕事に従事しているから少しお話し合いましょうかと言って同席した。彼らはサンドイッチを食べ終わると私に向かって、モルモン教に就いて何か知っていますかとたずねた。私は彼らにモルモン教徒が一夫多妻を実施していた事やイリノイ州及びミズーリ州から追い出された事などに就いて多くの事を聞いたと告げたが彼らはモルモン経に就いて私に語り始めた。

彼らはジョセフ・スミスが天使から金版を受け取って、それを八ケ月間で飜訳したと告げた。彼らは私が若し読むことを約束するなら、一冊提供したいと言われたので、私は読みたいと約束した。けれども私の心には聖書は二十五回も訳されたが、その都度十年から



十五年もかかったことがはっきりしており、私のように永年聖典に親しんで来た者に、貧弱な二人の若い宣教師がこの書物がわずか八ケ月でエジプトの象形文字を修正したカルディア語から英語に、若い人（二十才代で）によって訳されたことを無理やりのみこませようとしているとしかとれなかった。そこで私は内心、それを読むことを保証出来ず彼らにすまないと思いながらも、その書物を受け取った。ところが驚いたことには別れに臨んで彼らはお祈りをしたいけれどよろしいでしょうかと私に頼んだ。私はどうぞと言って、彼らが私の為に、私の心が開けてその書物の真実なることを理解出来るようにと祈ってくれるのを聞いて、馬鹿らしく、こっけいにさえ感じたのであった。彼らが立ち去ってから私は友人の教授に向かって、「またここに二人のいい若者が背教の道を辿っている」と言った。既に三千五百の宗派があり、シカゴだけでも四百の宗派がある。私はここ数年間の内に更にどれだけの宗派が起こって来るだろうかと思った。

私は受け取ったモルモン経を数週間、図書室の机の上に置きっ放しにして置いた。而し私は何か得るところがあるだろうかと思って或る日曜日に、この書物を取り上げて読み始めた。私は語学に通じていた（十五ケ国語話すことが出来た）のでそれがカルディア語で書かれたものであったと認めることが出来た。私は五回読んでから、飜訳に於いては第一人者である友人の教授に送った。彼は、彼の知る限りに於いてそれは純粋のカルディア語であったと判断すると返答してこの書物を戻して来た。そこで私は、よしそれではジョセフ・スミスと云う詐欺師が如何に盗作の罪を犯したか証明してやろう、けれども先ずその内容を証明せねばならないと考えた。

書物の最初に、リーハイと云う非常に金持ちの予言者が天使からエルサレムの滅亡を警告されたと告げている。これは約紀元前六百年のことである。天使はリーハイに、その家族を伴って荒野に行くように、そうしないと彼らは滅ぼされるであろうと告げた。そこでリーハイはその言葉に従った。けれども三日後に彼は、ヘブライ語で書かれた彼らの家族の系図の含まれている記録を、親戚のレーバンの手から取って来る為に息子たちをエルサレムに送り返した。最初彼らは失敗した。二度目にレーバンは彼らを捕え、その持物を全部没収した。けれども彼らは脱走することが出来た。リーハイの息子のニーファイは天使からレーバン王を彼の手に渡すと言う指令を受けて夜に又戻って行った。彼は王宮へ行く途中にレーバンに逢った。レーバンは長老たちの処へ外出し酒に酔ってニーファイの足下に倒れていた。ニーファイは〝一人の亡びるのは、全国の民の信仰がなくなって亡びてしまうよりはよい〟と云うみたまのささやきに応じてレーバンの首をうち落とし、レーバンの衣服をとって自分の身に着け、レーバンの家に行きレーバンの声色をつかってレーバンの召使に兄弟の処へ持って行き度いから宝庫を開けて記録を渡すように要求した。（召使はその夜レーバンが行った長老たちのことを言っていると思った）実際にはその兄弟たちは市の城壁の外で待っているニーファイの兄弟、レーマンとレミュエルであった。更にこの話は、単に記録が得られただけでなく、召使のゾーラムが若し彼らと共に行くなら赦してやると言われて彼らに従ったことをも告げている。

私は五十年間、図書館員をつとめた（彼はニューデリーでと言った）一人のユダヤ人を知っており、若しもモルモン経に書かれて

あるような人物が実在したものなら彼が確に知っているであろうと思った。私は手紙を書くよりも直接旅行して彼をたずねた。そして図書館に行きわざわざこんな遠く迄来たのだから一冊をも見逃がすまいと思った。そして彼にその内容を話し、何かそのような事に関した記録があるだろうかとたずねた。彼は他の部屋に行って一冊の書物を持って来て「私の知っている限りではこれが唯一の記録である」と言った。

それは逃亡した暗殺者の一味に就いて述べられてあった。記録は盗まれたが殺人者は遂に捕えられなかった。更に彼ら一味の者は荒野をさまよった後、船を造って大海を渡って行ったがその後の消息は不明であると記されてあった。これは正にモルモン経に記されている事と一致している。私は今更のように驚いて、このモルモン経を丁寧に読み始めた。当時使用された貨幣単位に就いても、適当な場所に照合して調べた処、それは正確なものであると云う返事を受けた。

私は何か欠陥がないだろうかと注意深くさぐりながらモルモン経を二十二回読んだ。そして最後の時にはその一言一句に就いて又その英訳にも仔細に検討したが何ら欠陥を見い出すことは出来なかった。けれども私はこのジョセフ・スミスと云う男がこの記録の写しを何処かで入手して、それを写し取って自分のものであると主張したに相違ないと思った。そこで私は調査員に頼んでアメリカ合衆国に於ける、すべての大学及び図書館にそのような記録が無かったかどうか調べてもらったが、何処にも無かったと云う返事であった。彼らはいつも恐らく、ジョセフ・スミスはその記録を天使から受けてその記録と共に在ったウリムとトムミム及び胸当の力によって飜訳し、それから十一人の証人に示した。これらの人々は金版及びウリムとトムミムに触れそれを証した。そこで彼は版権を受けてモルモン経として知られているこの書物を出版したのであった。

それ以来私はモルモン経は、誰が書いたものであっても権威あるものであると証明した。私は百四十五人のヒンヅー教徒の学生たちに講義をする約束をした。私の講義は約一時間半かかり私は彼らを長くひきとめたことを詫びた。けれども彼らは、もっと聞きたいと申し出で私はこれに応じて更に二時間続講したが、更に彼らの要請に応じて七時間半の講義を続けたのであった。私は彼らが坐っていることにすっかり疲れてしまったであろうと思う程講義したのであったが驚いたことには、彼らはこの講義にすっかり心を奪われてしまっていたのであった。そして私はその時、私が現在持っている程の知識を持っていたら、モルモン教会のデビット・O・マッケイ大管長に頼んでバプテスマを授ける為に誰かを送ってもらったでしょう。何となれば彼らは皆改宗していたのであったから、けれども私はその時、まだモルモン教徒でなく、マッケイ大管長をも知らなかった。私はジョセフ・スミスが盗作したに相違ないと思われる原本を探す為にあらゆる努力をしたが発見出来ず所謂、私の調査は壁につきあたってしまったので、今度はスミス家の家族を調べて見ようと決心した。そしてその調査の結果私は彼の一家が、貧しい農家で非常に勤勉忠実な家族であったと言われていることがすべて真実であることを知った。私は彼の書物が偽作であるか又はジョセフ・スミスが詐欺師であるかを証明しようと世界中を、くまなく探査したのであったがどちらをも証明出来なかったのである。そしてそのことが私をして、ジョセフ・スミスが記録の飜訳に使用したと言われ

るウリムとトムミムに就いて関心を向けさせたのであった。私はまだ一度もそれを見たことがなかった。けれども私はその絵を見たことがあった。その上私は主が無学な農家の一少年を予言者として召されることを信ずることが出来なかった。この時、予言者が実在したとしても私はそれを信ずることが出来なかった。私は考えれば考える程困惑してしまった。そこで私はモロナイ書、十章の始めにある約束の言葉を思い出した。

〝ごらん、私はあなたたちにすすめたい。あなたたちがこの記録を読むことを神が許したもうならば、あなたたちはこの記録を読む時に……、心の中に深く考えてほしい。またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって、永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば神は聖霊の力によって、この記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

これが最後のテストであった。私は常に祈っていた人間であった。そこで毎日私はこの書物が神性な力によってもたらされたものであるかどうか知りたいと祈っていた。私は何週間も祈ったけれども尚まだジョセフ・スミスが天使から金版をうけたかどうか、そして又その金版から訳したかどうかを疑っていた。そして私は上海で逢った、アルコールも、コーヒーも飲まない、二人の若い宣教師のことを思い出した。そして私は主が私のこのような悪い行い（酒、コーヒーを飲む）を喜ばれないのではなかろうかと思った。

若しも私が、もっとへりくだって悔い改めたら、答えを受けるかも知れない。私は決して大酒呑みではなかった。けれども少しの晩酌を好みパイプやシガレットを口にしウイスキー入りのソーダをよく飲んでいた。けれども私は遂に晩酌を止めパイプやシガレットを口からはなし私自身を神のみ手にゆだねる決心をした。私は神の約束したもうた御言葉に従い、その結果がもたらされるかどうか、ためして見ようとした。

約五週間が過ぎた。その間私は、この書物がもたらされた真実を知りたいと願って心から祈り求めた。ところが或朝、それは安息日の朝であった。私の妻が既に起きて朝食の準備をしている時、私はベットに横たわっていた。私はこの書物が真実なものでジョセフ・スミスによって訳されたかどうか、私の心からなる祈りに、どうして答えがないのであろうかと思っていた時であった。突然私の口もきけない程の力を以って表示された。私はこれは妻にのみ語るべきことだと思って起き上がって衣服を着けて台所に行って妻に語った処、驚いた事には妻はすべてを知っていた。

一九五一年、私たちはアイダホ州、ナムパに行ってバプテスマを受け末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となった。そして六年間の信者生活をして今、講演旅行を終えてソルト・レーク市に到着した。私は東部を旅していた時に友人であるシーン監督及びスペルマン枢機卿の家庭に招待された。私は彼らにモルモン経を提供し、私がそれが真実であることを如何に証明したかを告げた。私は、彼らに今私が知っている事を語り、若し今私が乞われるならばすべてのウラニューム鉱山を我が足下におさめるか或いはローマの最頂上に坐するかするよりも、モルモン教会の雑役夫となるであろうと告げた。私は彼らに若しも彼らがモルモン経が偽りであると、或いは又末日聖徒イエス・キリスト教会が天のお方によって設立されたのでないと証明出来るなら私は再びカトリック教会に加入するであろ

う。又数千弗を、私の自動車を、私の家を（二万五千弗、時価）更に私の妻さえも提供するであろう。そして私はカトリック教会の為に無報酬で数十年も奉仕するであろう。私はこの申出を世の如何なる人に対しても敢てするであろうと告げた。

私は今、ソルト・レーク市にいます。過去六年間私は一度も神権会及び聖餐式を休んだことがなくこうしてここに来ることが出来たわけです。集会に間に合うようにロスアンゼルスの我が家迄帰ることが出来ないので妻と共に、ソルト・レークに立ち寄ることに決めたのです。私はバプテスマを受けてから酒、煙草、コーヒーに、触れたことなく、この六年間に十五人のカトリック司祭及び三千五百人の信者をモルモン教会に改宗させたのであります。私は南京の大学教授の職を辞しそれ以来低能児教育に従事し或成功を納めて来ています。

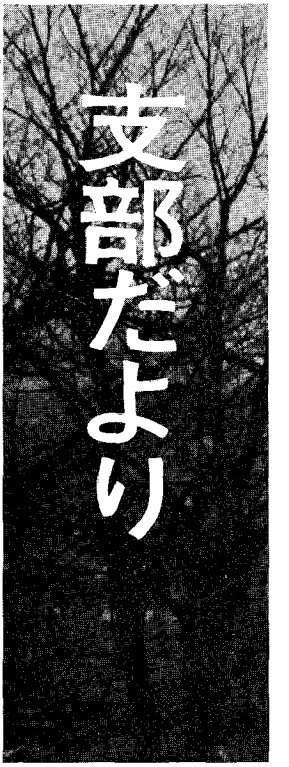
私は現在、フォエニクスに行って低能児童の為に学校を設立しようと計画しております。（今日この計画を彼は実行した）

一人旅の車中にて

名古屋支部　柳田聰子

日は沈み　たそがれの野には
人影もなし
わが心　ただひとりなり
悩みは　胸にしずみて
さみしきわれは　あこがる
天の父よ　わが主よ
心あつく　呼ぼうよ
あこがれの　父よ

日々の　わが悲しみは
胸の底に沈みて
はらからさえ　知るものなし
されど　ひとりなるとき
わが心は痛む
父よ　父よ　来りて
わがかたわらに　立ちたまえ
あこがれの　わが父よ



札幌支部

支部長会及び各補助組織の役員が大幅に移動しましたのでお知らせします。

支部長　松下泰洋
第一副支部長　西島吉春
第二副支部長　本間広
支部書記　小林整功
支部書記補佐　吉田英
ジェネラル・スィクレタリー　藤田秀光
支部長会補佐　倉見光男
〃　藤田秀光
日曜学校会長　山本竹司
第一副会長　渡辺和彦
第二副会長　柴田直毅
書記　小林整功
YMMIA会長　是安厚子
YWMIA会長　熊谷叔子
〃　副会長　三上瑛子
MIA書記

扶助協会会長　牧野千代子
〃　第一副会長　砂川尚子
〃　第二副会長　浅香和枝
扶助協会書記　室谷喜久江

教会運営に必要な委員会を組織しました。すべての会員が、いずれかの委員会に属し、働くことにより、支部の発展、あるいは、個人の進歩のために役立てることを目的としています。

施設管理委員会　建物、土地、備品の管理
西島吉春兄弟　清掃
建築委員会　建築資金の獲得計画
松下泰洋兄弟　建築の実行計画
親睦委員会　会員求道者の親睦
藤田秀光兄弟
系図委員会　神殿事業。系図の探究
本間広兄弟　祖先の発見による死者の救いの準備
音楽委員会　全音楽活動の計画と実行
松下泰洋兄弟

図書委員会　広く文書に関するあらゆる事柄を管理し会員に福音、研究の機会を与える。
倉見光男兄弟

本間広兄弟は、五月十九日の地方部大会において、長老の神権が与えられました。又、同札幌支部の清水圭子姉妹との婚約が発表されました。

お二人共、系図の仕事には、特に大きな感心を寄せ、すでに、多くの先祖を見つけ出していらっしゃいます。伝道部系図委員会会長の渡辺正雄兄弟は、系図の仕事を通して結ばれたのは、大変喜ばしいことで、幸せな人生を歩むに違いないと、大喜びで、お祝いの言葉をのべていらっしゃいました。

八月三日挙式

山本竹司兄弟と黒崎匡代姉妹婚約

黒崎姉妹は、バプテスマを受けて、四年になりますが、会員との結婚を強く望んでいらっしゃいました。お二人は、職場で知り合い黒崎姉妹のさそいによって、山本氏は、教会に集うようになり、家庭集会、バプテスマを経て、今回の婚約のはこびとなったわけです。

黒崎姉妹は、最近、非専任宣教師の仕事を終え、山本兄弟の人柄はさることながら、モルモンという条件をそなえられ、又、山本兄弟は、本当にやさしく、教会生活においては先輩とも言うべき、たのもしい姉妹と結ばれる喜びは、いかばかりかと、彼らを知る者、心からお祝い致します。

六月二十二日挙式

岡町支部

五月二十五日（土）

扶助協会主催のデザートパーティが開かれました。青葉の頃にちなんで木の葉の形の券が百円で売られ前日に秋元冨佐姉妹指導のアップルパイの講習があって沢山のパイを作り、当日はパイとアイスクリーム、ジュースをたっぷり頂き扶助協会のコーラス、宣教師の面白い劇、岡町ピーナッツこと秋元彬江、紘江姉妹の二重唱、秋元裕子姉妹のフラダンス等の余興があり楽しい一時を過ごしました。

五月二十九日（水）五週目の扶助協会でしたので豊中市にある刀根山療養所に九名の姉妹と二人の宣教師姉妹とでお見舞に参りました。かるい看者さんが一室に集まって下さったのでコーラス、お話、二重唱、お祈りをしてお花といちごを差し上げ、一日も早く御全快なさる様に、こう云う病気で苦しむ方が少なくなる様、又この方々が正しい教会を知り信仰をお持ちになるようにと祈り乍ら帰りました。

今年も例年の如くGOLD AND GREEN BALLが開かれました。M・I・Aの役員もこの日から新しくなり皆はりきって前日から会場の装飾を致しました。お庭の木を切って（余り切ると支部長サマに叱られては……との配慮から根のついたままとってきて後で又もとの所に植えていた兄弟もいましたが）室内を緑の森の様な感じにし所々に金色のモールをのぞかせるなどこったもので大好評でした。又休憩の時に出た氷の間にレモンと庭のサツキの花の浮いた美しくおいしいジュースに一同大喜び致しました。

ここで全組織の新会長会を御紹介致します。支部長会、支部長　阪本弘、第一　中川宗幸、第二　辻達男、書記　牧瀬十二郎、日曜学校、会長　中本満　第一　丸川邦夫、第二　阪本偵司、書記　松本勝明、M・I・A・YM会長　杉村裕一、YW会長　秋元彬江、同副会長　講崎幸子、書記　宮川靖弘

扶助協会、扶助協会は五月より夜出られない主婦と昼では都合の悪い姉妹たちのために昼夜二部行なっています。会長　秋元冨佐、第一　阪本晴子、第二　村川香代、書記　秋元彬江

岡山支部

五月四・五日に西中央部大会が三ノ宮でおこなわれました。岡山支部では十一人の姉妹と一人の兄弟が出席しました。岡山支部から西中央部大会に十二人の兄弟、姉妹が出席できたのは岡山支部はじまっていらいです。支部長さんは大へんよろこんでいらっしゃいます。

八月にはM・I・A全国大会が東京でおこなわれますが支部からたくさん兄弟、姉妹が出席できますようにとみなガンバッテいます。

又岡山支部は建て物を与えていただきました。この建て物の中で日曜学校、M・I・A等の集会はいつもひらかれています。

岡山支部に七人の兄弟、姉妹がバプテスマを受けられました。谷本姉妹、柔原姉妹、古橋姉妹、藤井姉妹、阿部姉妹、小原兄弟、陶山兄弟です。

このバプテスマを受けられた方は今責任を与えていただいておりますが、この責任をりっぱにはたせるようにと努力しています。又扶助協会もふたたび岡山支部に発足することができました。これから岡山支部はもっともっと発展することができると思ってみんなガンバッテいます。

支部長　フリーマン長老
日曜学校会長
今支部では会長の人がいなく、おもに第一副会長、第二副会長の人が中心になって日曜学校をすすめています。

第一副会長　浜田姉妹
第二〃　陶山兄弟
書記　阿部姉妹
M・I・A会長　光岡姉妹
第一副会長　古橋姉妹
第二〃　藤井姉妹
書記　岡部姉妹
扶助協会会長　管沢姉妹
第一副会長　池田姉妹
第二〃　土屋姉妹
書記　池田姉妹

東京南支部

「長雨もなんのそのと　南の子らは
支部の祭に　一、二、三、四」

梅雨にはいった今日、この頃、各支部の兄弟姉妹、いかがお過ごしですか。南支部におきましては、五月二十日から二十六日までの一週間、年に一度の支部大会が開かれましたので、ここに末日聖徒キリスト教会、会員の皆様、及び聖徒の道御愛読者に慎んで御報告申し上げます。

扶助協会

五月二十一日（火曜日）うっとうしい、なまぬるい日でしたが、地方部の役員の方々を初め、支部長さんの出席まで、いただき、扶助協会大会が、支部大会の皮切りを致しました。静粛なうちに和気あいあいとした雰囲気を保ちつつ、長谷川雪子姉妹の司会で予定時刻かっきりに始まりました。

地方部扶助協会会長の鈴木姉妹のお話しは「会員の間でも小さい事を疎かにせず、愛を育て、集会を信じ会える場にしましょう。又その為にも集会に出席致しましょう」というメッセージ、及び「南支部は、たいへんまとまって活動しています」との、おほめのお言葉をいただき、私たちは、ほのかな誇りを覚えた次第です。続いて、内山姉妹（コーラス二八五番をはさんで）マン姉妹、中東姉妹、地方部扶助協会第一副会長の浅川姉妹、川田支部長の方々からお話を伺い、扶助協会の目的である、〝愛と奉仕〟や「扶助協会を身近なものに」ということが強調されました。中には、扶助協会に出席している婦人なら、私の妻にといった、兄弟の言葉が出たりして、思わずほほえむ、などの一こまもあり、私たちは扶助協会の重要な、すばらしい任務を知ると共に、現在日本の扶助協会はどうあるべきか考えさせられました。まずは扶助協会の目的を知り、欠かさず出席することが何よりも大切であると思いました。話をして下さいました皆様、心からのお話をありがとうございました。部屋に準備された椅子がきれいにうまり終始落ち着いた扶助協会らしい暖かみがあふれた、すばらしい集会でした。

記事、野田由里姉妹

MIA

〝オリンピックは参加することに意義がある〟参加することの意義はオリンピックにかぎらず、日常茶飯事、我が教会に社会に痛感することで、参加者が増加するに従って意義、又参加することによって得る喜びは、末広がりとなる。これには例外はないと思う。

南支部には音楽愛好家が沢山いる。それが反映してか、MIAに於いて音楽部門が盛況なのも何んの不思義はない。絵画クラス担当の小生にとっては少々不満である。司会者『今まで沢山の活動がありましたが、参加者全員絵画のクラスに出席してしまいますので今週から他の活動を中止します』これが小生の夢であり、又これこそ相互発達協会と言うべきか？とにかく現在は音楽の時代である。そこで当然支部大会に於けるMIAは音楽祭とあいなったのである。プログラムは大会二週間前に、各々のグループに与えられ、同一時間に集まって練習する難しさにもかかわらず良く練習したと思う。ここに参加の意義が存在する。南支部の諸君は小生を除いて時間には厳しい。開会七時、中川紀代子姉妹の司会のもとに、百名近い出席者でおこなわれた。さて、それからが大変、ズウズウしい者ばかりのはずどころか、どうしてそうではないらしい。中に純情な者がいたから途中でトチル、持ち時間が短縮する。ぶっつけ本番で出る者あり、とにかく予定通り行かない所におもしろさが倍加する。終始笑いがたえない。ハワイアンバンドあり、盆おどりあり、俗曲あり、艶歌師あり、シャミセンからウクレレまで聞き別けるのに一苦労である。最後にみんなで一緒に合唱して幕、かくして〝どんぐりの背較べ〟は終わったのである。確かに参加することの意義は大きかった。MIAは参加することに意義がある〟と言うべきか。記事、浅野鴇緒兄弟

神権会

支部大会の最終日である二十六日は初夏、絶好なる天気に恵まれ、私たち南支部の神権者は、地方部長の今井一男兄弟、書記の小室敬兄弟をお迎えし、相共に集い神権会を開けましたことを感謝しております。支部長の川田益雄兄弟司会のもとに、プログラムに従い今井陽一兄弟が支部大会のテーマ、ローマ人への手紙一章を朗読した後、アロン神権、メ

ルケゼデク神権の二つのクラスに別れて、レッスンがおこなわれました。アロン神権においては、中村誠雄兄弟、今井一男兄弟、高吉兄弟により有意義な話をいただき、神権者としての祝福を感謝すると共に責任を感じ御国発展の為、又、シオン建設の為、これから、一層の努力を払うよう自覚し、証を強めました。

記事、小高源太郎兄弟

一般大会

一週間の支部大会も最終日の一般大会は約八十五人の出席のもとで日曜学校会長の浅野兄弟の司会で行なわれました。久振りに前に十何人かがならび出席者もみないつもより緊張気味でした。それだけに静かな重さの有る雰囲気の中で求道者生活の長い小川ヒサ子さんの心のこもった支部大会テーマの朗読で始まりました。パウロの強い信仰の表われである〝我、福音を恥とせず〟について教える様にの説教をする様にの経験を通して訴えるようにと各自の持味を生かした話が堀田兄弟、吉田姉妹、中東兄弟、そして地方部の小室兄弟から有りました。小室兄弟は相変わらずきく人を必ず一度は笑う、御存知あの調子で最後の話をかざりました。

心もち緊張気味の浅野兄弟もプログラムが進むにつれいつものあっさりしたというか、そんな調子で良き司会を事なくやってのけました。本当に御苦労様でした。

一般大会終わって庭でみんなと例にもれず記念写真。どうぞ一人一人の明るい喜びのあふれた表情をごらん下さい。

記事、坂本欽史兄弟

聖餐会

聖餐式でパンと水をいただいて誓約を新たにしたあと、三人の方からお話を聴きました先ず、デザイナーは、いつでも誰もが見かけるようなありふれた生地から、新しいスタイルを造り出し生地をよみがえらせて行く。音楽家は誰がたたいても音が出るピアノから音楽を作り出す。特別の生地を、特別のピアノを必要としているのではない。万人が公平に所有する一日二十四時間も、二十四時間に支配されて過ごす人もあれば、二十四時間をうまく生かして過ごす人もある。教会堂建設と云う時期を迎えた現在、私たちは二十四時間に支配されて過ごすのではなく、時間をうまくデザインして、建設に励まねばならないと中川ヒカル姉妹が話しました。

次いで川田支部長より、南支部の現状報告が行なわれ、四月末現在、南支部は登録会員数二〇五名（男九十六女一〇三）聖餐式平均出席数四十四名（約二十一％）

昨年バプテスマを受けた人は男二十七女二十七の計五十四名。その中現在教会に来ている人は、男五、女二十一の二十六名になっています。この数字は私たちに、何を教えているのでしょうか。私たちはこの大会を機に、ここで立ちどまって考えてみよう。私たちは皆〝若いし〟栄えある世界を控えている。ロマ書一章のテーマを通し、〝末の日に〟この地で私たちが生活している事実を良く考えてみましょうと話され、最後に今井地方部長より、メッセージを聴き、聖餐会を終わりました。（K）

記事、坂井圭兄弟

これから暑い日がつづきますから各支部の兄弟姉妹、どうぞお体を大切に良き全国大会夏休みにおそなえ下さい。

北の守り。信仰の潟沼一家

五月十八・十九の両日に亘って北海道小樽市で北海道地方部春季大会が盛大に開かれた。十八日夜のＭＩＡは市議事堂のホールでタレントショウー、各支部兄弟姉妹のはなばなしい競演の内に瞬く間に夜の一時は過ぎ去って行ったが最後に大綱をつかんで潟沼一利支部長を先頭にずらりと舞台一面に整列した小樽支部神権者一同の声高らかな大漁の歌、その他民謡は誠に素晴らしく、このタレントの夕べに一段と光を輝かした最後の王冠であった。

私はその調和した美しい歌声の中に支部長さんを慈父とした一大家族の小樽支部のはつらつと生長し行く姿を見、又躍進する息吹きを聞いたのでした。

支部長ではあるけれど一兄弟としてよく会員の中にとけこんで共に歌い働いておられる潟沼兄弟を小樽支部の兄弟姉妹たちは心から愛し慕っておられる。そのなごやかな暖かい支部のふんいきに訪問者は誰でもすぐこの支部に非常な親しみを感ずるようになるでしょう。この潟沼支部長さんのお父さんが既に七十才を越えておられるのに改宗され会員となり、而も神権迄戴いておられ本大会にも最後迄熱心に出席しておられ、皆の注目を惹いた次第です。息子さんである支部長さんはお父さんの為に教会の庭の責任を準備しておられる。この親思いの名支部長さんの弟さんの誠二兄弟が又素晴らしい信仰一家である。そして誠二兄弟は目下北海道地方部の第二副地方部長として現在第一副地方部長は空席なの

で、文字通り柳沢地方部長の片腕として重責を担っておられる。面白いことに兄さんの一利兄弟とほんとに仲よく幼い頃より一度も争ったことがないそうだが、二人とも信仰一家としてそれぞれ教会内で重責を担うようになってからどちらも教会を思う熱心の余りよく議論するようになったそうです。兄さんの方は半年になるお嬢さん、弟さんは遂一ヶ月程前に息子さんの潤ちゃんを恵まれて、負けず劣らずのよきパパ振り、MIA大会では二人で声を揃えてパパの歌を歌い、ほんとに嬉しそうでした。

誠二兄弟には、信仰によって結ばれた次のような美しいロマンスがある。現在誠二兄弟は昭和高校の国文の教諭をしておられるがまだ札幌の学芸大学の学生の頃、関西の方へ視察旅行に出られた時、以前に小樽支部で働かれたビルガム長老を訪ねて広島支部を訪ねられた時、始めて陽子姉妹に逢われたらしい。村田陽子姉妹と言えば素晴らしい信仰の人としてよく宣教師の口からも聞かされ、称讃のまととなっていましたが、この信仰の強い二人がその心に、ふれ合ったことは当然であります。でも昨年春、東京西支部でアンドラス伝道部長司式のもとにめでたく結ばれる迄には、実に多くの困難が横わっていたのであります。関西電力の副社長であられる陽子姉妹のお父さんは姉妹が広島のミッションの大学を卒業されるとすぐ、可愛いい一人娘の為にいろいろと社会的地位のある素晴らしい縁談を持ち込まれたそうですが、姉妹は教会の会員でなければと固く断り続けたそうです。その為姉妹の教会出席もなかなか容易でなかったようです。

誠二兄弟は陽子姉妹のお父さんの高い社会的地位に気兼ねして曾つて陽子姉妹に断りの手紙を出された処、陽子姉妹は「神権者である貴方に結ばれることが唯一の私の進むべき道です」と答えられたそうであります。

誠に〝神の合せ給ひし者は、人これを離すべからず〟この聖句こそお二人の為に書かれたのではないでしょうか。その後も幾多の困難があったようですがこの聖句はめでたく成就して昨年春の挙式となったのです。その席上、陽子姉妹のお父さんがアンドラス伝道部長さんの肩を叩いて、

〝とうとう娘を貴方に（教会に）とられてしまいましたよ〟と言って微笑されたがその眼にちらりと光るものを見た私の頭に次の聖句が浮かんで来ました。そして岩のような陽子姉妹の御信仰と、愛する一人娘を暖かい故郷の広島から、はるか北国、吹雪荒ぶ北海道の地へ送る御両親の御胸中をお察しして胸のつまる思いがしました。〝我よりも父または母を愛する者は、我に相応しからず。我よりも息子または娘を愛する者は、我に相応しからず。又おのが十字架をとりて我に従はぬ者は我に相応しからず。生命を得る者はこれを失ひ我がために生命を失ふ者はこれを得べし〟。

名門の村田家を後に〝瀬戸内海のさざ波に別れを告げ、北の海、日本海のさかまく小樽へ。けれども神権の一族、潟沼家へ、主を愛すればこそ嫁いで行く、陽子姉妹の御胸中は如何かであったでしょうか。恐らく姉妹の胸には次の聖句が秘められていたのではないでしょうか。

〝妻たる者よ、主に服ふごとく己の夫に従へ。キリストは自ら体の救主にして教会の首なるごとく、妻も凡てのこと夫に服へ〟。

それから誠二兄弟の信仰は盤石となり教会活動も躍進して、今日北の守り、北海道地方部長会を背負って立つに至ったのです。誠に

神は奇しきみわざを以って一歩一歩とそのとりでを固めて行くようです。

今春三月末に神権者の卵である御長男の潤ちゃんを恵まれた御二人の喜びは一方ならず、又一利兄弟のお嬢さんに引き続いてこの男孫さんに恵まれた御両親のお喜びも大変で本大会でも、おじいちゃんが潤ちゃんのお守り役をされておられた。潤ちゃんは非常な難産であられたようですが兄弟の神権と姉妹の信仰によって、又大いなる神の恵みにより、無事乗り切って、その後日ましに祝福され潤ちゃんを中心に日々御幸福な御生活を送って居られる。

本大会に私は柳沢地方部長と共に誠二兄弟の家に泊めていただき、北海道地方部の将来に就いて地方部長会と共に親しく語り合う機会を得たことは、ほんとに幸でした。柳沢兄弟は本年中にも北海道長老定員会は独立したいと意気込んでおられたが、一大牧農地である北海道は誠に長老定員会の福祉活動に最好適地ではないでしょうか。無事大会を終え、早朝私を駅迄見送って下さった誠二兄弟がどうぞこれを見て下さいと出された新聞、見れば、たくましい若人開拓者が果しなきこの沃土にトラクターを走らせている。これぞこの地にシオンの種を播く誠二兄弟の姿そのものではなかろうか。カウリー使徒は、本部の献堂式で日本のそこ、ここに神殿が建つと祈られたが、北の守りとして将来北海道にも神殿が建てられるのではなかろうか、本大会で系図の仕事を通じて結ばれた、素晴らしい縁組、本間兄弟と清水姉妹の婚約が発表された時、私はセント・ジョージの神殿が献堂されて間もなく永遠の結婚をされたピーターソン兄弟夫妻が遂二・三年前に、結婚八十周年のお祝をしたことと思い合わせて誠におめでたく、北海道地方部将来の為、心から喜びお祝い申し上げた次第でありました。

誠二兄弟は日本人のモルモン指導者としてこの新天地に働かれると言われる。お父さんは何十年と漁夫の生活をされ、誠二兄弟も一利兄弟も幼い時から魚釣りして海で暮らされたそうですが、今は教会の仕事が忙しくて、海に行くひまはないそうです。正に「なんじ

今よりのち人を漁らん」と主に言われて網を置いて従ったゼベダイの子ヤコブとヨハネではなかろうか？　二日に亘る本大会の会場であった小樽市会議事堂の舞台の幕には古代の象形文字が美しく画かれている。それは誠二兄弟が案内してくれた小樽海岸の岩壁に刻まれた古代文字を写したものでこの岩壁は史蹟として保存されているが、学者は次のように訳している。

「我は部下を率い大海を渡り闘い、此の洞窟に入る」
イスラエルの散乱で東方に敢ったルベン・カド・マナセの何れかが、この北海道にも辿り着いたのではなかろうか？

〝北の国々に在る者たちは、主の前に主を憶えて出で来る。またその予言者たちも、主の声を聞きてもはや自ら抑うる能わず、彼ら巌を打ちて氷その前に流れ下らん。一つの大路は大いなる淵の唯中に現われて出で、彼らの敵はかえりて彼らの餌とならん。不毛の砂漠の中に生ける水の池、出で来り、焼けたる地は、もはや温いなき土地にあらざらん。而してこれらの地は、わが僕なるエフライムの子孫に豊かなる財宝を産み出ずべし。永遠の山々の境は彼らの前にゆれ動き、北の国々の者はひざまずきて、シオンに於いてエフライムの子孫なる主の僕らの手により栄の冠を受け、彼らは永遠の悦びの歌をもて満たされん〟。

北の守り、北海道地方部の将来に祝福あれ!!
その指導者たちの上に神の導きとお守りあれ!!

潟沼兄弟御一家の心からなるお世話で無事二日間の北海道大会での大任を果した私は、かく祈りつつ車上の人となりました。

（渡部）

伝道本部だより

バプテスマ　一九六三年六月

阿倍野
藤原節子
福西静代
平山照久
岩崎恵美子
小林和彦
松井正子
広司嘉子
田中順子
石井純子
堀佐和子
木室明
山下敏子
高橋昭恵
富沢千鶴子
畑谷正子
久志敬子

金沢
内海清子
菅野和子
浅井裕子
奥川美智子
佐藤末代
三井静代
白須純江
白須玉江
土橋節子
渡辺幹夫
山平和子
長谷川清子
金丸強
岡本亮
音川八郎
斎藤清機
芝忠男
高橋稔彦

甲府
岡安克己
鈴木義美
田島豊子

新潟
阿部宣夫
馬場年弘
櫛谷章治
丸山恒雄
森ヨミツ
中山周一
西山岩男
西山和利
清水裕子
外山義明
渡辺嘉津世

旭川
大橋興
菅野和子

名古屋
浜田惣資
桑原欣子
陶山俊治
岩下好孝
小竹彰
黒田泰蔵
松村安雄
村山芳子
中川善雄
野上暎子
島知子
白矢節子
住野功
神徳隆治
高橋登美子
高本圭子
高本時子
田中良一

京都
森隆暁
中山周一
住野功
市村善之
高橋登美子
柏原広昌
関口征子
高橋やい子
吉田次郎

福岡
荒木義雄
福谷ハエヨ
林義弘
谷本みや子
小原勝二郎
阿部栄子
池田律子
坂野末子
安藤輝幸
土井勝次
同前志津雄
原隆章
市村善之
門田三代子
高橋昭雄
鈴木智幸
相橋和子
管静枝
本越千恵子
結城志保子
村岡黎子
佐々木史郎
村松輝久
田中治子
久高安枝
仲村美恵子
当間栄基

岡町
宮崎喜久男
宮崎清子

岡山
山本浅美
山県和子

三の宮
安藤輝幸
土井勝次
同前志津雄
原隆章
市村善之
門田三代子
柏原広昌
関口征子
幕内百合香
中川千代子
定松淳一
下木真弓

西の宮
渡辺嘉津世
田中良一
戸田道子

松本
林美沙子

札幌
前田正一
西里孝子
小原勝二郎
相沢幸信
川村久安
仙石勝子
鈴木智幸
高橋昭雄
浅野瑠璃子
藤本豊三
秋元光子
石原智代
近藤時江
根岸テル子
高橋やい子
吉田次郎

仙台
高木和子
田中忠雄
寺田幸子

東京中央
高橋昭雄
本越千恵子
結城志保子
柳井不二馬
近東和子
末村美恵子
当間栄基
上原美恵子

浦川勝
中野祥子

東京西
小鷹ナツ江
宇野勝也
本間本二
高木和子
田中忠雄
寺田幸子

山形
相橋和子
管静枝
本越千恵子
結城志保子

東京北
佐々木史郎
村松輝久
田中治子

東京東
佐々木史郎
村松輝久
田中治子

東京南
佐々木史郎
村松輝久
田中治子

横浜
佐々木史郎
村松輝久
田中治子

那覇
村松輝久
田中治子

神　権

阿倍野
ヒネノヤ　ユウタロ(執)
市　道　喜八郎(祭)
ツノヤマ　テルオ(執)

群　馬
小林　エイイチ(執)
マシモ　ヒロシ(執)
サワグチ　タモツ(執)

広　島
コガ　ヒサヨシ(教)
オキ　ノボル(教)
コノモト　タダオ(祭)
ニイイ　ヒデハル(祭)
シバタ　テツジ(執)
スギヤマ　カツヒコ(執)

金　沢
イシシロ　マサノブ(教)

松　本
イト　イサオ(執)
コサカ　ナガオ(執)
クマガイ　シゲオ(執)

名古屋
アオキ　ケイゾウ(執)
キザワ　オサム(執)
マツモト　シンイチ(執)
サッサ　シロウ(執)
タカツカ　トミオ(執)

新　潟
ワタナベ　タダオ(教)
アトベ　マサオ(執)

西の宮
フクヤ　キョウジ(教)
ニシダ　マサオ(執)
サクライ　カツヒコ(教)
ツボウチ　オサム(祭)
ヤスイ　ゴロウ(執)
キタガワ　マサキチ(長)

岡　町
コイケ　ヒロミチ(執)
コンドウ　ヒロスケ(教)
トネ　マサイチ(祭)
ヨシダ　ジロウ(祭)
ナカモト　ミツル(長)
スギムラ　コウイチ(長)

小　樽
ゴト　ショウイチ(執)
ヒグチ　ヒロシ(執)
イケハタ　イサオ(執)
カワサキ　クニオ(執)
ニシムラ　マサヒロ(執)
オクヤマ　キョウジ(教)
サカイ　マサヒロ(教)
ヨコヤマ　タダシロウ(教)
ハタナカ　ハルオ(祭)、
クシオカ　シンイチ(祭)
マスダ　テルトシ(祭)

三の宮
アズマ　マサオ(執)
ミズノ　ケンイチ(執)
ツボイ　ショウゾウ(執)
ナガイ　ヨシノリ(執)
ミヤウチ　タカユキ(教)
タカツ　ケンイチ(教)

仙　台
フジイ　シゲオ(祭)

東京中央
オオハラ　ミツナガ(教)
タカイ　ジュンイチ(教)
タカナワ　ケンイチ(教)
タカヤマ　シュウジ(教)
トガワ　ケンイチ(教)
ツボタ　アキオ(教)
ナカジマ　タケシ(教)
タカハシ　マサシ(教)
カワハラ　ヨシヒロ(執)
RHEE Myrhoang(執)

東京東
サワダ　カツロ(執)
ヨネムラ　タケトシ(祭)
キグチ　シゲオ(執)
ノガミ　シゲル(執)

東京南
ナガセ　ヨシアキ(執)
ナカムラ　マサオ(執)
アサノ　トキオ(教)
コフクダ　フミオ(教)
オダカ　ゲンタロウ(教)
ヨシカワ　トシオ(教)

東京西
ヒラスエ　ヨシクニ(祭)
工　藤　駿　一(祭)
大　橋　正　弘(祭)
イシイ　タカシ(執)
テイ　マサヒロ(執)
ヤマダ　トシアキ(教)

山　形
アライ　カズヒデ(祭)
シバタ　ツカサ(執)
タカハシ　シンジ(執)

柳　井
ニイヤマ　ヤスオ(長)
タグチ　ミツヤス(教)

横　浜
イトウ　テツジ(執)
カネコ　マサトシ(執)
カワイ　ヨシハル(執)
コブチ　アキラ(執)
ササキ　ヒロシ(執)

普天間
コハグラ　スナオ(教)
キンジョウ　ジンセイ(教)

那　覇
トウマ　クニオ(執)
タカヨシ　ヒロシ(祭)
ヨシムラ　タダシ(教)

ブランチ・ティーチング・レッスン

訪問教師のメッセージ

（千九百六十三年七月の第一週に）

教会内の一致（統一）

末日聖徒は皆、教会内の団結に就いて理解すべきである。イエスは裏切られる前の大きな祈りの内で一致に比較される程、熱烈に祈った祈りはなかった。

〝今より我は世に居らず、彼らは世に居り、我は汝にゆく。聖なる父よ、我に賜ひたる汝の御名の中に彼らを守りたまへ。これ我らのごとく、彼らの一つとならん為なり〟

〝我かれらの為のみならず、その言によりて我を信ずる者のためにも願ふ。これ皆一つとならん為なり。父よ、なんじ我に在し我なんじに居るごとく、彼らも我らに居らん為なり、是なんじの我を遣し給ひしことを世の信ぜん為なり。我は汝の我に賜ひし栄光を彼らに与へたり、是われらの一つなる如く、彼らも一つとならん為なり〟（ヨハネ伝一七・一一、二〇―二二）

教会内の一致の目的は、同じ祈りの中で、主によって、はっきりとされている。即ち主が建てた教会は地上に於ける神の王国であった事を〝世の知らん為なり〟若しも教会の会員の仲が強い愛と協力を示すなら世の人も無視することの出来ない模範となるのである。この一つとは何であろうか？　それは如何にして達成されるのであろうか？　イエスが心に思っていた一致は、彼の教会のすべての会員はその志が一定しており同じ目標に向かって働くことであった。福音の律法と儀式に従うことは一致団結の鍵である。それは各会員が、教会を守り、その原則にのっとり、その目的を促進し、その標準を保ち、その機能の活動に参加し、その指導者を支持することにある。

一致団結の第一歩は家庭にある筈である。若しも家の中に紛争又は不和があるなら、それは誰かが神の誡命を守っていないのである。平和と愛と調和のない天上の家庭を貴方は想像することが出来ますか。若しも一つの支部が党派に分かれていたら何か欠陥があるのである。若しも定員会又はクラスの会員が教義に就いて意見を異にしているなら誰かが真理のみたまは、意見の相違をうながすものでないことを覚るべきである。一致協力の精神の下に私たちは、什分の一を払い、教会はそれによって神殿や教会堂や学校を建てることが出来るのである。一致協力の精神の下に私たちは断食の律法を守り、断食献金をして私たちの仲間で貧しい忠実な会員を援け合う一致協力の精神の下に私たちは息子たちや娘たちを伝道地に送り、世界に向かって真理を述べ伝えさせる。同じ精神を以って私たちは死者の為に系図を探求し、彼らの為に神殿の仕事をしてシオン山の救い手たちとなる。

一致協力の精神の下に私たちは忠実に神権会、聖餐式その他出るべき会に出席する。一致協力の精神と純粋の忠実さを以って私たちは教会幹部を支持する。使徒パウロは〝我々は信仰に一致する迄〟は完成されないと言った。

ブランチ・ティーチング・レッスン

訪問教師のメッセージ

（千九百六十三年八月の第一週に）

教会内の敬虔

末日聖徒たちは集会に出席して或場合、その動作に無頓着であると非難される。この批判に注目すべきである。それは私たちの或者が敬虔の念に欠けていることを意味しているのである。会員のすべてがこのような気持を克服するように心がけるべきである。敬虔は心からの真の礼拝への鍵である。敬虔なくしては礼拝の為の集会も単なる見せかけとなってしまうのである。私たちが礼拝に集う時、誠実さと敬虔さが極めて大切なのである。

教会堂、教室及び娯楽室は私たちの団体生活の中心をなしている。ここで私たちは礼拝し、友だちと交際し、慰安を楽しむのである。私たちは不敬虔にながれるつもりはないかも知れないけれども時として慎みを忘れ、神への敬虔の念に欠け、共に礼拝する仲間の事を考えなくなる。私たちは人のことは目につくが自分自身の行動を反省する事を忘れがちになる。私たちはもっと敬虔になるようにつとめねばならない。この責任は親として又教会の教師として役員として私たち一人々々の上にあるのである。

私たちは集会に於いてどのように大切な話があるかわからない。又前以って心の準備も出来ていないけれども私たちは礼拝堂に敬虔な気持で入るべきである。私たちは玄関に入った時に、神に献堂された建物に入ったと意識すべきである。私たちは各集会の目的をよく知って、何か学び益するところがなければならない。この事は聖餐式に於いて特にそうである。

私たちは不必要な会話を集会後に延ばして迅速に着席すべきである。前奏の音を聞いて私たちはその敬虔なふんいきに一つとなるべきである。そして集会が終わる迄、立ち去るべきでない。閉会の祈りが終わっても、私たちはあまり騒がしくすべきではない。会話は元気よく明朗であっても低い調子でなさるべきである。

私たちは親として子供たちを敬虔な気持になるように訓練すべきである。子供たちは幼児から、教会の集会の中での正しい動作を教えられるべきである。小さな子供たちは廊下を歩き廻るべきでない。聖餐式には子供たちは、誰に監督されることもなく両親と共に席に坐っているようにしつけられねばならない。彼らは教会堂内を又教室内やホールの中を走ったり叫んだりしてはならない。

すべての補助組織の役員たちは、すべての集会の秩序を保つべきである。教師たちは少しの混乱もなく高い霊的な標準を以ってクラスを司会すべきである。

すべての人が、この大切なことを自分の責任として努力するなら私たちは必ず改善され進歩するでしょう。

第一、長老定員会

雨が降り洪水が押寄せ風が吹いて、その家に打ちつけても倒れることはない。岩を土台としているからである。――マタイ伝七章

○私達の住むこの極寒の地においても、益々神権の力が強くなり、我々第一長老定員会の会員も現在百余名を擁し、いよいよ力強い仕事が出来る段階となって来ました。東京、横浜地区のグループも、東京東支部をのぞいて全て組織され、各支部にあってのグループも実際に仕事を出来る運びとなりました。教会の礎は神権にあり、御国の発展は神権を持てる諸氏の双肩にかかっています。互いに頑張りましょう。

○六月より定員会の活動資金源として毎月百円の会費を集めることにしました。この会費は、定員会の連絡費、文化活動の為の予算資金獲得のための資金、ウエルフェアー活動のための資金等に致します。

○第一長老定員会書記として相良健一兄弟が任命されました。相良兄弟は山形支部より横浜に移られ、同支部の支部長会員として活発に活動されていました。

○新しく出来たグループとリーダー

東京北支部　細野孝紹兄弟
東京西支部　笹岡紀美兄弟
横浜支部　相良健一兄弟

○色々な提案がありましたら、東京南支部の第一長老定員会事務室までお知らせ下さい。

（四五三頁より続き）

の変更された事や同じ苗字であるからという理由で有名な人の紋章を模倣した事を知った上で深く調査すれば系図の研究の上で大切な務をする事と思います。（石井正道）

通信による系図採求（一）

先ず貴方の問題をはっきりと分析することにより手書を書く準備をしなさい。

貴方は誰を探求しているのか？

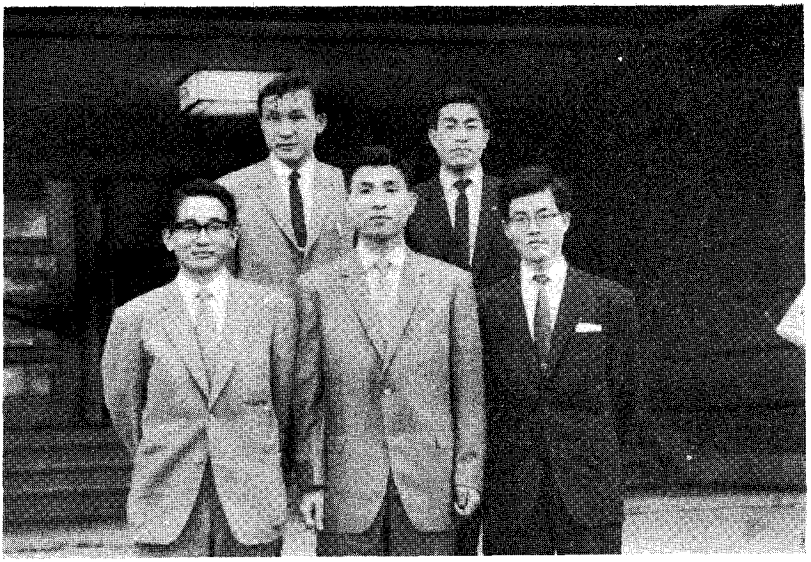
直系の家族の中で必要な情報を提供してくれる誰かがいるであろうか？

貴方はこれら先祖たちと個人的接衝を持っている誰かに就いて思いあたることが出来るか？　大きな家族の内に特に家族の史実を集めている他の者がいるか？

旧家附近に住んで家族の聖典や墓石や戸口調査や教会或いは郡県の記録に接触出来る如何なる人と貴方は通信出来るか？

貴方の問題をあらゆる角度から注意深く学ぶことがその成功を保証することとなるでしょう。

（系図探求要覧より）



前列左より　成田、渡辺、坂本　後列左より　上野山、阿部

六月

第二長老定員会

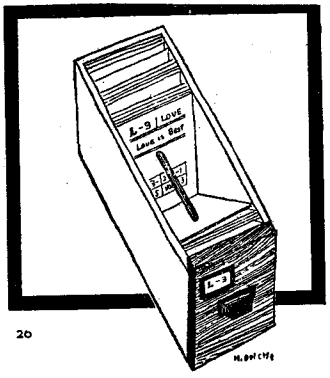
去る五月五日、西中央地方部大会が、神戸御影公会堂で開催されました。伝道部長御夫妻を始め、福岡、柳井、広島、岡山、金沢、名古屋の遠方支部会員も、多数参加され各支部の歩調も力強いものに感じられました。

神権会は伝道部長を迎えて、部屋にあふれるばかりの人が集まり開かれました。特に大神権者は四十一名を数え最も多かった事は、地方部の発展と第二長老定員会の今後の成長に期する処が大きい。

長らく会長と書記二名で構成されておりました会長会も、会員の増加と活動の伸長のため写真の様に、会長・渡辺驪兄弟、第一副会長・成田好和兄弟、第二副会長・坂本吉章兄弟、会計書記・上野山真杉兄弟、記録書記・阿部初男兄弟が支持を受け伝道部長及び会長より聖任されました。今後共皆さんの協力を得て神の御国の建設の一端を担うべく、奉仕の精神をもって任務を遂行する決意であります。又、同日第二長老定員会の今年の目標として一人一人が「良き指導者、良き教師となるように」との指示が会長より与えられました。キリスト再降臨を間近に控え、全員心を尽し、精神を尽し、思いを尽して、神の御業に励みましょう。

神の豊かな恵みが、一同の上にあるようお祈り申し上げます。

第二長老定員会会長会



20

系図の道しるべ

発祥地（本国）

明治維新、すなわち近代日本のれい明期以後は交通の発達と社会の変動に伴って、我々の当時の先祖も全国に移動し、雑婚した為、漸次発祥地の不明な血統を混入する事にもなって参りましたが、徳川幕府末期までの封建制度の下にあっては、多くの家はそれ程居住地を変更もせず、又変更もゆるされませんでしたから、自分の家の発祥地（本国）から苗字の起原地がわかれば大体の事が解決されたと言ってもよろしいのです。古代姓氏の移動は未開墾地を開発して部落を作り、一つの村全体が同じ姓の場合が多い為、氏名から起こった地名が多い。そこへ後の世になって他の姓の人が来て其の土地を領有し其の土地名を苗字とした事も多いのであります。このような場合には古い氏と新しい苗字とは同じになりますが、流れを異にする訳ですけれど、同じ土地に久しく居住しておりますと自然に血統が混合して結局同族という事に成るわけです。

紋　章

同じ紋であると言うことも何かの縁故であるに違いありません。殊に同じ地方の同じ苗字が二つ或いは三つの同紋族に区別される場合が多いといわれはいます。これには当然何かの原因がなければならぬ訳ですが、紋章の数というものは原因の一つであります。遠くはなれた土地に住み異なった苗字を有しながら紋章だけ同じという場合には特にそうであると考えられます。

賜紋といって、皇室や武門、領主或いは附近の豪族などから、紋章をもらうと言う現象が少なくありませんでした。紋章というものは元々旗や陣幕につけて何処の隊か、誰の陣屋かを知らせるものでありましたから、一つの城の主である者はそれぞれ異なった紋章を持っておりましたが、戦場で闘う武士は主君か又は待大将と同じ紋章でなければなりませんでした。それが後々の世になって、それぞれの家の紋章となった為に主名の紋を多少変更したり、別に工夫するとか、他の地方の同じ苗字の人の紋章を真似するかでありました。祖先以来同じ家に奉公する場合は賜紋でない限り、主君と同じ紋章をつける事は出来ませんから、違った紋章をつけましたが主君が変わればそんな遠慮はいりませんから昔の主人の紋章を其の儘使用した例も少なくありませんでした。このような紋章の起原や度々

（四五一頁に続く）

子供の日曜学校ガイド

8月用

日曜学校でイエス様のことを学びましょう

子供の日曜学校、それは幾度も申しあげていることですが、決して幼稚園ではありませんし、また、七十五分間、ただ子供たちと遊んですごす所ではありません。

ソウデス。ここでは、イエス・キリストの福音を学ぶところなのです。先生方も、子供たちに教えるばかりでなく、レッスンを準備するにあたって、貴女自身、福音に接する機会があるわけです。

ともすれば、子供の集会場になりがちな日曜学校、ここでもう一度、我々は考えてみるべきだと思います。

霊的な雰囲気を作り出すその方法を?

霊的雰囲気を高めましょう

½の話、或いは大人の日曜学校会長会、第二副会長による挨拶の時、分級してからでもよろしいですから、子供たちに、ここは何を考え、学ぶ所なのか話してください。毎週行ってもかまいません。

聖書を開いて次の聖句を子供たちの前で先生が朗読する。

「わが家は祈りの家である。」(ルカ十九〇四六)

問　この本は何の本ですか?

聖書を高くかかげる。

返事がない場合、教えてください。

『これは聖書というもので、イエス様が私たちのために、とても大切なことを教えてくださっているのです。』

問　さっき先生が読んだ聖句の意味がわかりますか?

『ここの家、教会では神様の事を考えたりこの聖書の中に書かれていることについて先生から教えてもらうところです。そして、静かに目をとじて神様とお話をする。ソウ! お祈りをするところなのです。』

再び聖句を読む。

「幼な子らをわたしのとこに来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない。」(ルカ十八〇十六)

イエス様はとても子供が好きでした。或日、イエス様が道端で休んでいますと、皆さん位の年の子供をつれた、お母さんたちがイエス様のそばに近づいてきました。子供たちは大好きなイエス様をみつけて飛んでゆき、手にさわったり、着物をひっぱったり、遊んでもらおうと、まつわりつきました。これをみた、イエス様のお弟子さんたちが「これこれ坊やたち、イエス様はとても、おつかれになっているのだから、むこうに行ってお遊び」とさとしました。すると、イエス様は静かに「いいえ、子供たちのしたいようにしておきなさい。この子供たちのような、きれいな、澄んだ瞳と心を持っていなければ神様の所に行くことができないのです。神様の口は、このような良い子ばかりが住むところですから。」とお弟子さんたちに教えてくださいました。

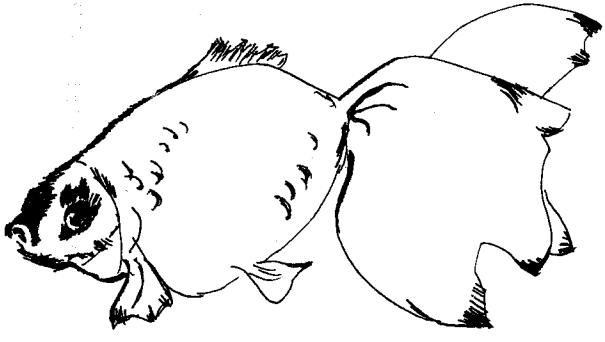
皆さんも、今日ここに集まって、こんなに子供を愛してくださった。イエス様がどんなことを私たちにして欲しいと望んでいらっしゃるか静かに少しの間、勉強しましょう。そして、イエス様の教えてくださった事をよく守って学校でも、お家でも、遊ぶ時でも、お使いする時でも、どんな時にでも、イエス様に好かれる子供になりましょう。

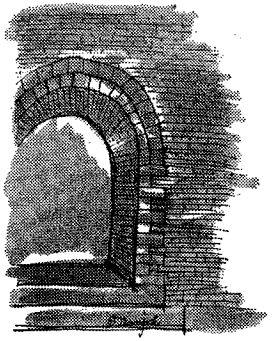
おねがい

各支部を回覧中の紙芝居の流れが、あまり功く動いていないようです。どうぞ規則をよく守って三週間以内で必ず次の支部に送るよう、可愛がって使ってください。

皆さまの愛の手の下に無事に最後の彼らの家まで届けてください。数々の支部を訪問して歩く紙芝居、目にみえぬ糸のつながりがあると考えられませんか、御協力をお願い致します。

尚、郵送の際、何かと（郵送代）起こっているそうですが、支部長さんより切手をいただくのも一方法と思います。





日曜学校ガイド

8月用

日曜大集会

八月二十五日では学校が始まって行けないという兄弟姉妹がかなり多くおりますので、一週間早めて**八月十八日**に致しました。この日は十二使徒が来て東京北、西支部教会堂の献堂も行なうことが考えられております。はっきり決まったらすぐにチラシをお廻し致しますが是非参加なさいますよう準備して待っていて下さい。

レッスン・ガイド

レッスン・ガイドは現在各支部に二部ずつ送っておりますが、一部は会長会、一部は教師のためです。支部長、会長が一人占めしている支部がありますが、是非教師に渡してレッスンの参考になさるよう勤めて下さい。レッスンの進行状況が、ガイドの予定日と著しく違う場合は二課一緒にやるとか一課を二回に分けてやるとか、レッスン・ガイドに従ってもう一度復習的におさらいするとかしてガイドの指定日に近づけて下さい。尚、是非御意見がありましたら上野あてお便り下さい。

服装

かなり暑くなってくると、日曜学校に出席する人の服装が乱れてきます。男性は白ワイシャツにネクタイをつけたいものです。特に指導者はこれを守って下さい。女性はうすく透けたブラウス、前後の大きく開いた着物は避けて下さい。とにかく神様を礼拝する場所にふさわしい服装でありたいものです。

閉会後の演奏

「伝道部内地方部及び支部の手引」の三九頁に「最後の祈りの後、しばらく音楽を奏して参列者がそのまま席で黙想しているようなことは許可されるべきではない……」とあるが、これは決して後奏してはいけないとか、後奏中、話をしたりして敬虔さと静粛さを破ってもよいという意味ではない。聖さん会に出席しない人や用事がある人が後奏中に席を立つことを禁じてはいけないという意味で、特に日曜学校閉会後十分から十五分で聖さん会が開かれる関係もあるので、この時間も教会の敬虔な雰囲気が保たれるよう気を配っていただきたい。

指揮者へ

毎月練習の讃美歌を山岸姉妹に書いてもらっておりますが、指定の歌がよく知られている場合は別の歌を選んで練習してもよい。又

歌うときは本の上の方に指揮棒が視界にはいるよう本をもって指揮に従って歌うよう指導して下さい。一般にゆっくり歌われる傾向が強いので、正しい速さで歌うよう指揮して下さい。強さ弱さ、クレッシェンドなどは、全員が明確に守り、段々優れた歌い方をするよう指導し、歌詩に応じて、心をこめた歌を神に捧げるよう気を配り、教えていって下さい。

日曜学校質問欄

日本各地の熱心な兄弟姉妹の御質問に対しての正しい解答を記載してみました。

組織

1 **(質問)** 会長が解任されると、副会長及び書記は当然解任されると思います。では、教師、指揮者及びオルガニスト等は解任されますか。

(解答) 会長が解任されたら、当然会長会は同時に解体されます。更に、形式的に他の指導者（日曜学校の役員指導者全員）も解任される事になります。しかし、教師、指揮者その他の指導者は一般にそのまま受け継がれます。

2 **(質問)** 解任されて、再び同じ職に任命された人は、按手を受けなくてもよいか、或いは必要なのか、又、指導者が交代する時には名前を発表しなくてもよいのか。

(解答) 副会長及び書記が解任されて、再び新しい会長から要請されて同じ職をなす時でも賛成の支持を得て按手任命を必ず受けなければならない。会長会以外の指導者においては、聖餐会での支持ならびに按手任命は必ずしも必要ではありませんが、按手を行なってもかまわない。

3 **(質問)** 日曜学校役員、指導者とは誰ですか。

(解答) 役員とは一般に会長会即ち会長と副会長二名及び書記を示し、指導者とは、教師、指揮者、音楽伴奏者その他日曜学校の為に毎週働いている人を言う。

4 **(質問)** 会長会及び指導者の責任はどうなっていますか。

(解答) 一九六二年四月号聖徒の道第二三八頁〜二四一頁の日曜学校ガイドを御覧なさい。借りてでも読んでみること。

記録

1 **(質問)** 日曜学校役員及び指導者は、記録簿の生徒数（出席人数）に含まれないのですか。即ち、クラスの出席者が役員と指導者のみならば**そのクラスの生徒数は零**と記入するのですか。

(解答) 役員教師は**生徒数に含まれませんから**或るクラスは生徒**数が零の場合**もあります。

2 **(質問)** レポートの出席数の合計は記録簿に登録されている人の合計ですか。

(解答) 出席者は全員が出席数に含まれますが、宣教師、地方部等の指導者の訪問、他の支部の会員及び十一才以下の子供は除かれます。

3 **(質問)** 日曜学校に登録されていない求道者が多数出席した時には、出席率が百パーセントをこえる事があります。これは正しいでしょうか。

(解答) 出席数の中には求道者が含まれますから（2解答参照）登録人数よりも出席人数の方が多くなれば当然出席率は百パーセント以上になります。これは不都合ですので間もなく記録のつけ方を改えるつもりです。

4 **(質問)** 子供日曜学校の役員指導者の中に大人日曜学校の会長会全員が含まれますか。

(解答) 会長会全員ではなくて、第二副会長

のみが含まれます。従ってレポートにも、役員教師の欄には、子供日曜学校責任者及び指導者に第二副会長をも加えて下さい。けれども会長会が代りに出席した場合は無論出席人数に一名だけ入れて下さい。

5 (質問) 会長会と教師が兼職の場合の登録人数、出席人数はどうなりますか。

(解答) 登録、出席人数とも一人になります。

プログラム

1 (質問) 二分半の話の時に歌をやる事はどうですか。時間を二分半でやるならばよいですか。

(解答) 二分半の話はあくまで話。音楽の時間ではありません。尚、必ず二分半で終わる事。

2 (質問) 大人の日曜学校のプログラムの進行と時間の配分について。

(解答) 一九六二年六月号聖徒の道三六六頁〜三六八頁の日曜学校ガイドを参考にして下さい。開・閉会時刻を守ること。一時間十五分を使用すること。

3 (質問) 地方部等の指導者が訪問された時には誰が管理者になりますか。

(解答) プログラム印刷には管理者と言う項目は作らない事。訪問者といいます。日曜学校を管理するのは、伝道部長会、地方部長会、支部長会の順にいたします。

子供日曜学校

1 (質問) 子供日曜学校に副責任者がありますか、又大人日曜学校の第二副会長が責任者を兼ねますか。

(解答) 副責任者はありません。補助をおいて手伝ってもらうことはできます。一般には教師が責任者の代りを行なう。第二副会長は神権者か兄弟でありますから、責任者の兼務は避け、責任者には姉妹が適当です。

2 (質問) 大人日曜学校会長が解任されると子供日曜学校の役員も解任されますか。

(解答) 当然子供日曜学校役員は解任され、再び同じ人が選ばれても、責任者と書記は按手任命を受けることが必要です。

3 (質問) 子供日曜学校の祈り会と開・閉時に、会長会全員が出席すべきですか、又、その時の役員出席数はどうなりますか。

(解答) 第二副会長一人が望ましい。しかし神権会が同時に開かれているときは、三人が交代で出席するとよい。三人出席しても記録には第二副会長のみ一人が出席したと記す。

4 (質問) 子供日曜学校プログラムはどのようにやっていくのか。

(解答) 大人日曜学校に準ずる。時間は一時間十五分が適当。

(1) 開会の歌「子らは歌う」を基本にする。

(2) 開会の祈　教会外でも一人で祈れる様に祈り方を教えておくと集会の時、子供自身で祈れるでしょう。

(3) 練習の歌　聖徒の道での毎月の指導を参考にして実施すること。

(4) 聖句朗読　毎週別々な聖句を選んでもよいが、一ケ月間同じでもよい。テーマは一つで二十秒以内が適当、必ず口語を用いること。聖句を子供たちに理解させるために身近かな例をあげて説明するように。

(5) 二分半の話　大人の日曜学校と同じく二人に話してもらう。

(6) 分級　レッスン及び活動（四十五分間）

六十三年度クラス（四月〜三月）

上級（五年生以上）モルモン経物語

中級（二〜四年生）宗教と生活（I）

下級（一年生〜四才）聖書物語（旧）

レッスンに関係のある活動は効果的である。教材を多く使用すること。

(7)閉会の歌
(8)閉会の祈り

その他

1 (**質問**) 五十円献金が指定日にできなかったので、他の日にやってもよいか。
(**解答**) 支部の都合のよい日にやってよい。献金を集めたら支部長を通して、伝道本部へ「日曜学校基金」(Sunday School Fund」として送ること。

2 (**質問**) テキストの「見本」は本部へ返却するのですか。
(**解答**) 「見本」は支部図書室に保管し、日曜学校の各クラスでテキストを持っていない人にみせてやる。教師は「見本」を使わないべきである。

3 (**質問**) 日曜学校に関する質問、記録は、どこへすべきか、MIAのような事務局があるのか。
(**解答**) 質問、レポート等は伝道部日曜学校会長へ送ること。住所は
東京都中野区江古田町二の九九五
上野道男
尚、印刷された封筒が支部にありますから

今月の表紙

アルマ書　第46章
アルマ書　第48章11～7節

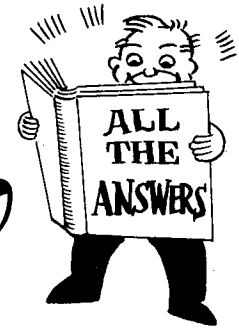
ＭＩＡ全国大会プログラム

日程	時　　間	プ　ロ　グ　ラ　ム	場　　所
8日 14日 （水）	7:00～9:00pm	**ＭＩＡ全国大会開会式　支部交歓パーテイ** 伝道部ＭＩＡ会長挨拶　伝道部長メッセージ	東京東支部
15日 （木）	8:00～12:00am 1:00～3:00pm	**スポーツの祭典** 第一部　伝道部バスケットボール・トーナメント 第二部　スポーツを楽しもう	横浜市営体育館
	6:00～9:00pm	**ＭＩＡ定例集会** ゴールド・アンド・グリン・ボール 第一部　フォーク・ダンス 第二部　ボール・ルーム・ダンス 出演　カタオカ・マサオとリズムエース Ｋ・サカイとサーフライダース	東京三福会館
16日 （金）	7:00am～4:30pm	**バス旅行** 多摩丘陵高崎観音山	群馬県高崎市
	7:00～9:00pm	**伝道部特別集会**　科学博士講演	東京東支部
17日 （土）	8:00～10:45am	**証調会（断食）**　Ｌ.Ｄ.Ｓコーラス	東京東支部
	11:00～12:00am	**系図特別集会**　担当　渡部系図委員会	東京東支部
	1:00～2:30pm	**ＭＩＡ役員教師会**	東京東支部
	6:00～9:00pm	**ＭＩＡハイライト**　幕があくまでおたのしみ	東京九段会館

日曜大集会プログラム

18日 （日）	9:00～10:00am	神権会　扶助協会	東京東支部
	10:30～12:00am	日曜学校　クラスに分れて集会を持つ	〃
	12:00～1:30pm	聖餐会　聖餐式　伝道部長夫妻の話	〃
	2:30～4:00pm	日曜学校指導者会	〃
	4:30～6:00pm	佐藤龍猪兄弟を囲んで　質疑応答	〃
	6:30～7:30pm	スライド	〃
日曜日の夜の宿泊も可能です			

MIA Leader



八月MIA活動

MIAも夏のレクリェイション・シーズンに入りました。八月はレッスンのクラスがありません。夏の太陽のもとで手足を大いにのばして、若人の楽しい青春を謳歌しようではありませんか。

八月の全国大会日程が変更になりましたので（すでに六月号に発表）それに従って、八月のカレンダーの一部を各支部に於いて変更して下さい。

八月一日　年令別クラスに分かれて一般活動を行ないます。「貴方の趣味」と言うテーマですので、誰が、どんな趣味を持っているか紹介して下さい。

八月八日　スポーツの夕べ

各支部に於いて、条件と会員の年令を考慮して、どのスポーツを行なうか選定して下さい。

例年のようにプールで水泳をする支部があると思いますが、MIA会員の増えるごとに、色々な問題も出て来ます。秩序とMIA標準をみださないように気をつけて下さい。

八月十五日　「ゲームで過ごそう」

この日は「演劇祭」ですが、MIA全国大会が行なわれますので次週の「ゲームで過ごそう」と変更して下さい。各地にあって全国大会に参加する人たちがあっても、また、幾人かの役員、教師たちがいなくても、ゲームならば、支部長会の人、支部宣教師の方々の助けを借りて、MIAを無事に開くことが出来るでしょう。支部MIA会員の⅔以上が大会に出席するようならば、支部のMIAは中止しても良いでしょう。半数以上が支部に残る様ならば、当然MIAは開かれるべきです。全国大会に参加するMIA役員、教師の方がいるので手薄になりますから、ゲームの準備や責任、当夜のプログラムは早くから、きちんと用意して下さい。

八月二十二日　「演劇祭」

演劇グループの方々が前々から、練習していたものを上演するのですから、待ちどおしいですね。

ちょっと気候が暑いので、スタッフや、キャストの方々はたいへんですが年中一度の演劇祭ですのではりきって下さい。ドーランが汗でおちやすいので、ひと苦労することでしょう。汗で眼にドーランが流れて痛い苦しみも、あとになって楽しい想い出になることでしょう。夏の夜の野外劇場も、また一興かと思います。

八月二十九日「ロードショウ」

今年度最後のＭＩＡです。愉しいプログラムを組んで下さい。歌も踊りも、コメックも、演説も、皆総出でプログラムに参加しましょう。但し、とび入りのドタバタ十八番等は止めて頂きたいと思います。きちんと準備計画されたものを皆さんの前に見せて下さい。軽い飲物等を出しても良いと思います。

栄子記

教師養成用レッスン

良く教え、指導する為の六つの基本的標準

第五課　教義を生徒たちの生活に生かしなさい。

教会で教える全てのものの最終の目標は、人々がイエス・キリストの福音を生きたものにするよう鼓舞し、動かし、手助けとなる事である。教師の働きは若しそれが学ぶ者を善に導かないようなら、効果あったとはならないのである。善に導く事こそ、イエスの希望であり、願望でもあった。エレミヤは次のように云った。

我がイスラエルの家に新しき契約を立つる日来たらん。然れど、彼の日の後に我がイスラエルの家に立てんところの契約はこれなり。我、律法を彼らのうちに置き、その心の上に記さん。我は彼らの神となり、彼らはわが民となるべし。（エレミヤ記三十一章～三十四節）

ヤコブは次のように云った。

ただ、御言葉を聞くのみにして、おのれを欺く者とならず、此れを行う者となれ。

（ヤコブ書一章二十二～二十八節）

此の目標を完遂するのはそう簡単な仕事ではない。性格は仲々、理解され難いものである。性格は複雑であり、個々的なものである。此の課の主題は可成りの注意と謙虚な心をもって取り扱われなければならない。あまりに独断的であってはならない。他の人たちの経験を軽視しないで、お互いに考え合うようにしよう。多分、経験を交換して語り合い、反省し合う事によって、福音を紙上の活字から学ぶ者の心に移すのに大きな働きとなる、二三の考えに到達するようになるでしょう。

接触して教えなさい

福音を教える際に、模範の力の影響力に関して多くの事が云われ、くり返されている。これらをよく云い表わしている言葉の一つに「あなたが何であるかをあまりに大声で話すので、私はあなたが何であるかが聞きとれない」また、説教をしたり、教えたりして何もしない人は偽善者である。誰も偽善者に尊敬の念を払わないであろう。何故なら、精神は喜べども、肉体は弱いからである。私たちは自分たちの中にも偽善があると考えている。これは他の人たちに指摘されなくとも容易に見付けられるものである。従って、教師は絶えず反省し、日常の生活から出来得る限り偽善を根こそぎ取ってしまう必要がある。

そうかと云って、若者や指導される人たちに対し、良い模範となるよう強いて努力し過ぎるのも危険である。どんな危険があるのだろうか。

1　イエスはこう述べられた「あなた方は二

人の主人に仕える事は出来ない」。福音に生きようと熱心に求め、同時に、人々の前で良い模範になろうと意識的になっている人は二人の主人—原因と結果—に仕えているようなものである。他の例をとってみよう。競技に参加するばかりでなく、コーチをも喜ばそうとするバスケットボールの選手はやがて行き詰まってしまうであろう。彼の最初の目的は第二の目的によって乱されてしまっているのである。若し、彼が競技を演ずる事にのみ注意を向けておれば、コーチはむしろ大いに感動するであろう。別の例を挙げると、人が演説をする時、如何に上手に為そうかと意識すれば、かえって、効果的な話に対する妨げとなってしまう。目的と主題の中では、完全に自己を無くしてしまう事が肝要である。

2　義を意識すれば美でなくなってしまうように、美徳を意識すれば、それから外れてしまうものである。例えば、謙遜さを模範に表わす時、人は真実、心から謙遜になれるだろうか。人々の前で良い模範を示す為に自分の仲間を愛する事が出来るだろうか。人は良い模範を示すのに、如何に意識的になるだろうか。

3　人が、自分は良い模範であると考える時には、その人の「美徳」は既に自己正当化に変わってしまっているのである。また、自分は良い模範とはならないと考えると、その事で意気消沈してしまうのである。仲間たちの前で模範となるようにすると、その何れかのディレンマにおちいってしまう。

以上のように仲々、難しいものであるが、指導者や教師たちは教会の内外で若者や他の者たちの前にあっては良き模範を示す事は大切である。人々は良い模範で教会に出席し、悪い模範で福音から離れていく。我々が努力する時、直接、良い模範になろうとするのは困難であり、危険をはらんだ過程である。此処に、希望通りの目標に到達し得る最良の方法がある。

最良の方法は救い主によって教えられた。それはペテロに与えられた言葉の中に見付けられる。「汝ら改宗せらる時、汝らの同胞をも強くせよ」。人々は我々が信じ、信ずるが故に実践する物事を感じとり、観察している。主を愛し、隣人を愛し、福音の原則に信仰を抱く者は自分の生活の中で此の愛と信仰を絶えず反省しなければならない。その人の生活こそ、確固たる信念の鏡なのである。（次月号に続く）

佐藤襄二訳

ＭＩＡの手引き（五月号より続く）

五月号で伝道部ＭＩＡの組織と管理・活動の系統を図表で示しました。説明を加えなくても、よく理解していただけたと思います。黒の太い線は、神権による管理系統です。点線の矢じるしの示す方向にＭＩＡ活動に関する指示と指導が与えられます。

今月は伝道部ＭＩＡ役員と、地方部ＭＩＡ役員の責任について述べたいのですが、都合上、伝道部ＭＩＡ役員の責任については一番最後にまわします。ただ、伝道部ＭＩＡが主催する会が幾つかありますので、御紹介しておきます。

一、サマー・キャンプ・プログラム
二、若人の大会
三、ファイヤー・サイド・プログラム
四、競技会
五、ダンス・音楽・演説・演劇・スポーツの祭典

これらのうちの一つである「若人の大会」を今年八月に初めての試みとして開くことにしたわけです。ＭＩＡ全国大会は此の伝道部はじまって以来の最初の全国大会でもあり、また、伝道部ＭＩＡのプログラムの最初のものでもあり、色々と困難な点もありますが、

各地の兄弟・姉妹の協力と、参加によって充分成功に導くことが出来ると確心しております。

さて、地方部ＭＩＡ指導者の組織と責任について述べてみましょう。

地方部ＭＩＡ役員はＹＭ・ＹＷの会長会から成り立っています。各々が書記を持っているのですが、本伝道部に於いては、適任者のいないことから地方部ＭＩＡ会長会は組織されず、指導者が任命されているにすぎません。また、現在ではＹＷのＭＩＡ指導者を持っている地区のないことは、真に残念です。

また、ＹＷとＹＭの会長会の称呼が異なっているのもＭＩＡの特色の一つです。即ち、ＹＭ・ＭＩＡに於いては、管理会長のもとにファスト・アシスタント、セカンドウ・アシスタントがいて書記がいます。ＹＷに於いては、会長のもとに、ファスト・カウンセラーセカンドウ・カウンセラーがいて、書記がいるわけです。英語による呼び方が違っておりますが、邦語訳では、どちらも第一副会長、第二副会長と言われています。此れらの役員が全員そろわない場合に次のように地方部ＭＩＡ指導者をおくことが出来ます。

即ち、ＹＭ・ＭＩＡ管理会長（若い男子会員）ＹＷ・ＭＩＡ会長（若い女子会員）書記（男女いずれでもよい）であって、それらの人々は強い証詞を持ち、活潑な会員として推薦されている人々によるわけです。

地方部ＭＩＡ役員の責任には次の様な事がある。即ち、

(1)伝道部ＭＩＡ役員と支部ＭＩＡ役員の間の連絡をとる。

(2)地方部長会、ＭＩＡ担当副地方部長の進言、忠告を受ける。

(3)ＭＩＡ会長の進歩、成長の助けをする。

(4)ＭＩＡの全プログラムを理解して、支部ＭＩＡ役員・教師を助け、ＭＩＡ年令別クラス・グループ活動を成功せしめる。

(5)地方部ＭＩＡ活動を計画し、カレンダーを作製する。また地方部ファイヤー・サイド会も計画する。

(6)地方部役員教師会を担当・司会する。各役員をクラスに分かれて、役員、クラス・リーダー、グループ・リーダーを指導する。

(7)伝道部の方針に従い若人の活動を管理する。

(8)種々の表彰について検討し、評定・認可推薦する。

(9)各支部・ＹＷ・ＭＩＡのレポートを集計し、伝道部に送附する。

(10)各支部の若い男子、若い女子がＭＩＡに出席しているかどうか調べる。（支部ＭＩＡ役員を助けて、青少年男女がＭＩＡに集うことを促進する。）

(11)伝道部より出版されている、ＭＩＡテキスト・活動参考書、カレンダー、手引き等を必ず所持する。

(12)各支部に於いて、ＭＩＡ出版物が行きわたっているかどうか調べる。

(13)各支部を訪問して、支部ＭＩＡ役員、教師を助け、支部ＭＩＡの問題を、検討する。

これらの責任がありますが、この伝道部に於いて、一部変更されているものもあります。

次号は、各地方部役員の責任分担について記します。

栄子記

伝道部扶助協会長（ミッションマザー）メッセージ

ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

教会員の数が急にふえていることは、今日私たちの教会に属している全伝道部の働きの特徴になっております。私たちの教会には世界中に七十一の伝道部があります。そして、大ていの伝道部には扶助協会があって活動をしており、現在その一つ一つが日ましに強くなっています。また新しい支部や地方部がつくられています。教会がいつも強い教会であるための助けとしてなくてならないものは「フェローシッピング・プログラム」（新しい会員と親しくして早く強い会員に仕上げる計画）であります。水のバプテスマを経て新しい会員が教会へ入ってきますとき、その新しい会員に助けやはげましや愛の手を伸べて歓迎する責任を支部の会員一人一人がひき受けることはひじょうに大切なことであります。どの組織もみな「フェローシッピング」の責任をもつのは当然でありますが、扶助協会はとくに先に立って友情と歓迎の手をさし伸べ、模範を示さなくてはなりません。私の知っているところでは、これをする一番良い方法の一つは「訪問教育プログラム」によることであります。

この春、私が一つ一つ地方部を訪問して「これらのいと小さきものに」という「訪問教育」映画を見せました際、あなたがたが「訪問教育プログラム」を一層完全に理解なさった証拠を見て大そう感激を覚えたことがあります。多くの支部は「訪問教育プログラム」がもっと効果をあげる組織立った活動を始めようとする努力を示しました。私たちの教会の幹部の方々は「フェローシッピング」に熱心であるように私たちをうながしていらっしゃいます。そこで第一歩は、あなたがたが「訪問教育」をすることであります。この「訪問教育」による「フェローシッピング」の成功について心の温まる話がいくつもソルトレーク市の本部事務局へ送られています。次のお話は、ある女の方が直接話しをなさった代表的な話であります。

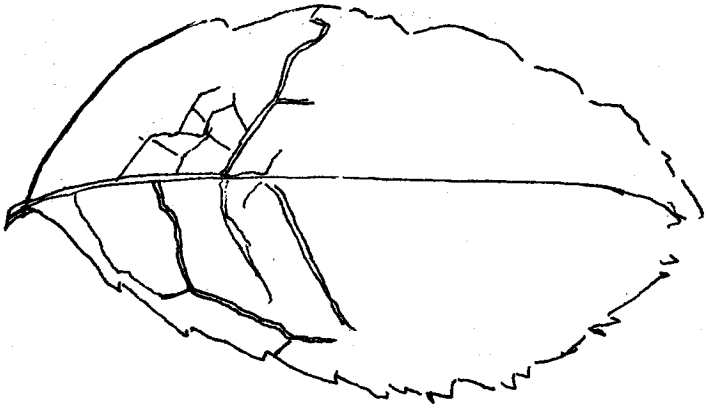
「私は扶助協会の姉妹たちが『再び活潑になった扶助協会員』と言っていらっしゃる姉妹であります。本当に私は扶助協会によって『再び活潑になった末日聖徒』であります。私はもともと末日聖徒である両親から生まれましたが、二十才になるまでバプテスマを受けませんでした。私はしばらくお友達と教会へ行きましたが、その後新しい町へひっこして行ってからは教会へ行くことをやめました。それから私が結婚した後、私はある「訪問教師」の方から扶助協会の会員になることをすすめられました。そこで、一、二度扶助協会へ行きましたが、それなりになってしまいました。そのことだけを言えば私自身にとっても、ほかの方にとっても、ほとんど取るに足らないことと思われました。ところが、一年前に私は扶助協会

主催のとくべつなパーティに招かれました。それはとても楽しかったので、私はその時ぐらいうれしいまたはおもしろい午後を過ごしたことはこれまで一度も覚えがありません。そこに集まった女の方はみな愛らしくて大へん親切でした。そして私に扶助協会の会員になって下さいとすすめました。私は始めこれに応じませんでしたが、みんなはつづけて私にすすめました。この方たちがまごころから私に会員になってほしいと思っている様子なので、その時自分で弱いなと思った瞬間つい会員になってしまいました。スパフォード姉妹、それは弱い瞬間ではありませんでした。本当はそれは大きなおめぐみでした。姉妹たちはすぐに私を姉妹たちの一人として歓迎して下さいました。そして、私が必要であることを実際に示しました。姉妹たちは、やさしいこころの同僚とともに私を「訪問教師」にしました。それからしばらくして、私の好きな「シンギング・マザーズ」合唱団を私に組織させました。またそのほか大切な仕事をさせて下さっています。扶助協会の中には、する価値のある働きがたくさんあります。私はごくわずかしか知っていなかった福音についてたくさんのことを今学んでいますから、とてもとても幸福です。私はほかの支部やワード部にも立派な扶助協会やすばらしい女の方があると思いますが、私のワード部のようなワード部や、私のところの女の方のような立派で親切な方がほかにあるとは信じられません。今私は、私の知っている女の方が一人のこらず扶助協会に入ってもらいたいような思いであります。それで私はあなたに、私がどんなに思っているか知ってもらいたいと思っています」

もしも教会へ新しく入った会員が一人のこらずこの女の方のように感じたなら、どんなにすばらしいでしょう。しかし、もし扶助協会の会員方が「訪問」と「フェローシッピング」の大切なことを充分に実感さえすれば、これは実現できることなのです。世界には、「訪問」をするために遠い距離を行かなくてはならない伝道部がほかにいくつもあります。しかし、訪問教師たちはその「訪問教育」をするため以前よりも一層精一杯の努力をしています。主なる神さまは、神に仕えるために私たちのするすべての余分の働きに対しておめぐみを下さるにちがいありません。私は北部極東伝道部の愛する姉妹一人一人が「訪問教育」をする機会をもつことを望んでいます。もしあなたが今訪問教師でなかったなら、扶助協会の仕事を助けるために、何かできることを扶助協会の会長さんにたのんで下さいませんか。

私たちに助けをしていただくために、伝道部の姉妹たちにおねがいしたいことがこのほかに一つあります。私たちの宣教師は「紹介プログラム」についてとくべつの助けを必要としております。もしもある宣教師があなたにお友だちを一人教会へつれてきて下さいと言うなら、それはあなたが立派な会員であるので、もし福音の原理さえわかったなら良い会員になれるすぐれたお友だちをもっていらっしゃるとちがいないと思っているからであります。もしもある宣教師があなたに求道者の一人を紹介するならば、それはあなたがすばらしい模範であるので、自分の求道者にとって教会の美しいところを見る助けになることができると思っているからであります。私たちの宣教師は、自分たちが日本の方々に対してもっている愛を示す方法が解らない時が時々ありますが、いつもそのことについて私たちに話します。宣教師たちは本当にあなたがたを愛していますか

（四七一頁に続く）



母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯（九）

第十八章　天使再びジョセフ・スミス（二代目）を訪ずれる

そのあくる日、私の夫とアルヴィンとジョセフとは畑で一しょにとり入れをしていましたが、三人が作物を刈っていたときジョセフはとつぜん手を止めてひじょうに考えこんでいる様子でした。アルヴィンはこれを見るとジョセフをせき立てて「今手をゆるめてはいけない、手をゆるめたら仕事を終わることができないぞ」と言いました。これを聞いてジョセフはまた仕事にとりかかりましたが、しばらく働くとまた前のように手を休めました。これはまったく今までになかった妙なことでありましたので、父親がジョセフに目をつけてよく見ますとジョセフの顔が真青であることがわかりました。私の夫はジョセフが病気にかかったと思い、家へ帰ってお母さんに薬を飲ませてもらえと申しました。そこでジョセフは仕事をやめて家へ帰りかけましたが、リンゴの木の下の美しい草原のところまで来ると足をとめて横になりました。彼はこのときたいへん弱っていて一足もさきへ進むことができなかったからであります。彼はそこにわずかの間しかいませんでしたが、その時前の夜に見た使者がまた彼のところを訪ずれました。そして最初にこの使者の言ったのは「なぜお前は、わたしが父親に話せと言ったことを話して聞かせなかったのか」ということばでありました。これを聞いてジョセフが「お父さんは私の言うことを信じてくれないと思いましたから」とこたえますと、天の使者は「父親はお前のことばを一つのこらず信

ずるにちがいない」と言いかえしました。

そこでジョセフはこの使者に、言いつけ通りいたしますと約束をしました。これを聞いて天の使者は去りましたから、ジョセフは私の夫とアルヴィンとがまだ働いている畑へ戻ってきました。ところが、父親はやや体の工合が悪かったので、ジョセフがそこへ着かない前に家へ帰ってきてしまっていました。ジョセフはこれを見てアルヴィンに、すぐさま家へ行って父親に会い、私には父親に知らせるひじょうに大切なことがあるから、前に働いていた畑のところまで出てきて下さいと言ってくれとたのみました。アルヴィンはジョセフのたのんだ通りにしました。そして私の夫がジョセフのいるところへまいりますと、ジョセフは前の夜とその朝にジョセフと天の使者の間に起こったことをすっかり話して聞かせました。この説明を聞いてしまうと、父親はジョセフに、その天の使者から受けた命令を固く守ってその通りにせよと言いつけました。

ジョセフは父親と話し合ったあと、すぐにあの金版がうめてある場所へ行きました。その場所のことをジョセフは次のように述べています。

「ニューヨーク州、オンタリオ郡、マンチェスターの村ちかくにかなりの大きな丘があるが、それはそのかいわいきっての高い所である。この丘の頂上からあまり遠くない西側の所にかなりの大きさの石があって、その下にある一つの石の箱の中にかの金版が置かれてあった。この石は表面がなか高でまるく、へりに行くにしたがいうすくなっていたから、石の中央部は地上にあらわれていたが、へりの方はみんな土で覆われていた。

私はその土をとりのけて、てこを一本手に入れ、これを石のへりにさしこんでちょっと力を入れてこの石をもちあげた。そして中をのぞきこむと、はたしてあの使者が言われたとおり金版「ウリムとトミム」胸当の三品がありありと私の目に見えた。これらの品々がおさまっていた箱は、一種のセメントを使って石をつみあげてこれを箱につくったもので、その箱の底に横むきに二箇の石が置かれ、この石の上に金版やその他の品々がいっしょにのせてあった」（タイムズ・エンド・シースンズ誌、第三巻七二九頁、ミレニヤルスター補遺第十四巻五頁、教会歴史十五・十六頁および「ジョセフ・スミスの見神録（日本語版）十六・十七頁参照）。

ジョセフがこの場所にとどまっていたうちに、その使者は善と悪とのちがいを対照して見せ、おなじように神の命令に従う結果と従わない結果とを対照して見せましたが、その対照がいかにもいちじるしかったので、心に受けた印象はいつでもジョセフの記憶に生き生きとのこっていて、生涯の終りになるまで消えませんでした。またジョセフはその死ぬ少し前にこの時のことを話しましたが、その時にもそれからあとは神の誡命をいつも進んで守ったと言いました。

さらにまた、天の使者は前に申しましたようにジョセフと会った際、その金版を世に出す時節はまだ来ていない、それであるからジョセフは、心の中で喜んで神の誡命を守るだけでなく行いにおいても神の誡命を守ることができるようになるまで、金版をうまっている場所からそとへとり出すことはできないと言いました。またその使者は、ジョセフに命じて毎年今日とおなじ日にこの場所へ来るようにと言い、そうすれば天使もここへ来てさらに指示を与えるであろうと申しました。

その晩、家族一同が集まったとき、ジョセフは皆の者に畑で父親に告げたこと、金版をみつけたこと、また金版のうめてある場所で天の使者と自分との間に起こったことなどすっかり話しました。ジョセフはその晩おそくまで寝ずに起きてこれらのことを話し合い、精神力を使いすぎたのでひじょうに疲れました。それでアルヴィンはこれに気がついたとき申しました「さあジョセフ、もう寝ようじゃないか。そして、あしたは日の沈む一時間前に一日の仕事をやってしまうように朝早く起きよう。それから、もしお母さんが夕ごはんを早くつくってくれるなら、夜はたっぷり時間があるから、神さまが啓示して下さった大したことをお前が話してくれるあいだ、わたしらはみんなしてゆっくり耳を傾けて聞くだろうよ」。

それで私たちはあくる日、太陽が沈むまでに、みんな腰をおろしてジョセフの話を聞きました。ジョセフは神さまが彼にお示しになったすばらしいことの話をし始めましたが、肝心な話に入る前に、これから話をすることは家族以外の人にもらしてはいけない、それは世の中の人々はひじょうに悪いから、これらのことを知ったときに私たちの命をとろうとするだろう、またあの金版を手に入れたとき私たちの名前は悪であるとしてすべての人々からすてられるからである、と言いました。また、それであるから、あの金版が世の中へ出る時が来るまで、これらのことは世の中の人が知らないようにおさえておかなくてはならないと言いました。

ジョセフは私たちにこのように命じてから、さらに進んで、ジョセフがするように任命された仕事についてこまかく述べましたが、私たちはこれを喜んで迎え、彼が私たちに与えた指示の通り、家族以外の人には何も話しませんでした。

これから以後、ジョセフはひきつづき主なる神から教えを受けましたので、私たちもひきつづき毎晩子供たちを集めてジョセフがその話をしてくれる間耳を傾むけました。私は、この時の私たちの家族は世にも風変りな様子を呈していたことと思います。私たちはみな円をえがいて腰をおろし、父も母も息子も娘も一人のこらず、十八才になる少年の語ることに深い注意をはらって耳を傾けていました。この子はそれまで聖書を読んだことがありませんでした。それでほかの子たちよりもずっと本を読まないたちのようでしたが、冥想をしたり深く考えこんだりすることはずっと好きなたちでした。

私たちは、今や神さまが私たちの心を満たすことのできる何かを解らせようとしていらっしゃるのだということ、または「救いの道」と「人類のあがない」についてもっと完全な知識を与えようとしていらっしゃるのだということは確かだと考えました。こう考えると私たちはひじょうに楽しくなって、最もこころよい一致と幸福とは家中にみちわたり、私たちのこころの中はひじょうにおだやかでありました。

私たちに夜はなしをしているうちに、ジョセフは折々思っても楽しい話をしてくれました。彼はアメリカ大陸に住んでいた古代の民のこと、その着ていた着物、旅のやり方、乗ってあるいた動物のことなどを話してくれました。また、その古代の民の都市、建物について事こまかに話し、その民の戦いのやり方、宗教上の礼拝などについても話してくれました。彼はこの話をまことにすらすらと、一見彼が一生その民の中でくらしたかのように話してくれたのでありました。

千八百二十四年九月の二十二日、ジョセフは前の年に金版を見つ

けた場所を再びおとずれました。そしてこのとき、金版を飜訳する以前に金版を手に入れることのできる唯一つの必要な条件は神の誡命を守ることができることであると考えました。そして自分に与えられた神の誡命はことごとく守ることができたと確く信じていましたので、この度は金版を家へ持って行けると充分期待していました。それでありますから、その場所へ着いて金版のある箱の上の石をとると、手をのばして金版をとりあげました。しかし、さてとり出そうとしたとき、その箱の中には金版のほかに何かほかのものがあったようだ、そしてそれは自分にとって大いに金銭上の利益になるものだという考えが折悪しく彼のこころにぐっと来ました。それで、はっと思った瞬間に、手に持った金版をそっとおろしました。それは、箱の中にのこっているものを通りすがりの人がみつけてとらないように、箱の上にふたをしてかくしておくつもりでした。さてふたをしてから、金版をとりあげようとあたりを見まわしますと、どこへ行ったか見えなくなっていました。それはどこへ行ってしまったか、またどうして彼から取り去られたか両方とも彼にわかりませんでした。

ここにおいて、当然の結果として彼はひじょうにびっくりしました。彼はひざまずいて、どうして金版が彼からとり去られたか主なる神さまに伺いました。すると主の使が彼にあらわれ、お前はさきに命ぜられた通りにしなかったからである、前の啓示ではその金版を手に入れたら家へそのまま持って帰って、箱かトランクの中に入れて錠前をおろしよく鍵をかけるまではけっして下ろしてはならない、または一時でも手から離してはならないと命じたではないか、お前はこの命令にそむいて箱にのこっていると想像した架空の宝をとる考えで金版を下ろしたからであると言いました。

ジョセフは、はっと思った瞬間に「暗黒」の力にまけて自分に言いつけられた戒めのことばを忘れてしまったのでありました。

この時、天の使者とひきつづき話をかわしてからジョセフは石のふたを開けてみることを許されました。そして石のふたを開けてみると、前に見た通り金版がそこにあるのが見えました。そこでジョセフはすぐに手をのばして金版をとろうとしました。彼は期待していたようにその金版を手に入れるかわりに、ひじょうに強い力で地の上に投げとばされました。彼が元にかえったとき天の使者はもう見えなくなっていました。それで彼は立ちあがると悲しみと失望のために泣きながら家へもどってきました。

彼が金版を持って家へ帰ってくるものと私たちが期待していたことを彼は知っていましたから、金版を見たことがほんとうかしら、と私たちが疑いはしないかと思って彼はひじょうに困りました。彼が家へ入るやいなや、私の夫は彼に金版を手に入れたかときました。すると彼は「いいえ、お父さん。金版を手に入れることはできませんでした」とこたえました。

父親はさらに聞きました「お前はほんとうにそれを見たのか」。ジョセフは「はい、見ましたけれどとってくることはできませんでした」と言いました。

すると父親が「もしもわしがお前の代りに行っていたなら、それをとってくることができたであろうに」と意気込んで言い返しますと、ジョセフはひじょうにおちついた調子で「そうですね、お父さんは自分が何を言っているかわからないのですよ。わたしは金版を手に入れることができませんでした。それは主の使者が私にとらせ

なかったからです」と言いました。

それからジョセフはその時の事情をすっかり話してきかせましたので、私たちは彼が自分の為すべきことを怠ったので金版を手に入れることに全然失敗したのではないかと思ってひじょうに不安を感じました。そこで私たちは、ジョセフが彼の為すべきことをもっと充分に教えられるよう、また「だまそうとして待ち伏せしている」人のあらゆるたくらみと陰謀から守られるように、それまでよりも倍増して、熱心に祈りまた神におねがいすることにしました。

さて、私たちは安楽に住める家を一軒建てる手配をしていましたが、その処理と統制とはおもにアルヴィン一人の肩にかかっていました。そして千八百二十二年の十一月になると、家の棟上げができてすみやかに完成をする必要なすべての材料が手に入りました。これでアルヴィンのこころには、彼の父と母とが今一度安楽なそして幸福なくらしをすることができるのを見る楽しい予想が開けました。アルヴィンはよく申しました「私はお父さんとお母さんが楽にしているためのきれいな気持ちのよい部屋を持とうとしている。そこでは安楽にするためのあらゆるものがそなえてあり、二人はもう前にしたことがあるように働かなくてもよいのだ」と。

註。この本の初版にある千八百二十二年という日附はたしかに正しい。ユタで出版した本には千八百二十四年としてあるがそれは正しくない、アルヴィンは千八百二十三年十一月に亡くなる前に新しい家を一部完成していたからである。

（四六六頁より続き）

ら、もっと多くの日本の方々に福音を教えたいと思っています。求道者か新しい会員かにとって本当のお友だちになることをひきうけては下さいませんか。近ごろ私は、数人の求道者が日曜学校へ出ている支部へまいりました。そこで私は忠実な扶助協会の会員に、その求道者のとなりにこしをかけ仲よくして下さいとたのみました。また別の若い婦人が玄関へ入ってきました。その方は全くおずおずしている様子でしたが、それでも教会の集りに出てみたいと思っているようでした。そこで私は、また別の姉妹にこの方とお友だちになってもらうようにたのみました。私は、これらの新しく教会へ来た女の方に福音のことを教える期待に胸をはずませて、その支部を去りたくないとさえ思いました！　しかし一度だけ友だちになるかにこやかにすることだけでは充分でありません。毎週かかさず、これらの求道者や新しい会員に親切であること、はげましを与えること、本当にこころから関心をもつことが必要であります。あなたがたは、救い主が「兄弟たちよ、これらのいと小さき者の一人に為したるは、われに為したるなり」と仰せになったことの意味を理解する人になって下さいませんか。理解することは行なうことであります—私はあなたがたがきっと実行して下さることを知っております—愛と友情と関心の手をさしのべて下さい。

扶助協会レッスン

訪問教師のメッセージ
（北部極東伝道部
千九百六十三年八月用）

メッセージその三

「宣教師のはたらき」

目的—宣教師のはたらきの目的と目標とを理解すること。

年わかい宣教師は、福音を宣べ伝えるという偉大な仕事をするために二年半のあいだ一身を捧げて忠実にはたらきます。このあいだこの宣教師の時間はことごとく二つの目的のために注がれています。その一はすなわち人々が福音を受け入れ、バプテスマを受けて教会に入るよう「回復された福音」の研究をするために「みたま」によって導びく努力をすることであります。第二は、神がそのしもべである予言者ジョセフ・スミスを通して世の人々に再びみことばを賜わったということを「警しめの声」によって宣言することであります。この宣教師は正しいことを勉強して備えをしなくてはなりません。知識を得るために多くの時間を使うことができますが、もしもこの知識を、ほかの人々の心に「信仰の自覚」を起こさせるよう私たちのもっている信仰の根本となっている教義を教えるために使うことができないなら、神のしもべにとってきわめてわずかの価値しかないでありましょう。一日のうち一刻もむだにしてはなりません。あるいている間に、または伝道をするために旅行をしている間に、または集りに行く途中で、支部の集りの始まるすぐ前と後に、ちょっと休んでいるときに、または一日の仕事を終わって床につく十分乃至十五分前にさえ聖句の暗誦をすることができます。

神は福音を回復なさったばかりでなく、福音を人々に伝える方法も回復なさいました。福音を教えるために重要な四つの鍵が予言者ジョセフ・スミスに啓示されています。それは次の通りであります。

第一の鍵——「みたま」によってあかしをすること。

まず正しい生活と祈りとけんそんな心と、力強いはたらきと献身とにより「みたま」を得、その「みたま」の命じたもうままに事を始めよ。

第二の鍵——予言者ジョセフ・スミスを通して福音のことばを伝えること。

予言者ジョセフ・スミスは真実神をその目で見たこと、神に召されて誠命をたまわり、数々の鍵をもっていることなど、予言者ジョセフ・スミスについてあかしをし予言者を通じて福音のことばを伝えよ。

第三の鍵——教会の基本的の書物が二つあること。

その一は「ジョセフ・スミスの見神録」であり、その二は「モルモン経」である。誰でも、この二つの書物のなかにしるしてありあかしをしてあるいろいろな出来事を絶対的に信ずることによって、はじめて「回復された福音のことば」を心から受け入れることができる。

第四の鍵——われわれは教えるためにつかわされるのであって、教えられるためにつかわされるのでないこと。

われわれは、いと高き神から「みたま」を授けられているのであるから、信仰と悔改めと聖霊による賜物とについて教えるはずである。

宣教師は、戸別に訪問して彼がはじめて会う人々のところへ行くときに何を言うか。宣教師「あかしのみたま」により、彼のことばに耳をかたむける人々の興味をよびおこす「みたま」によりたのんで「回復をつげることば」について五つのことを宣言する。

(一)イエスが、神の子キリストであること。

(二)ジョセフ・スミスが神の予言者であること。

(三)イエス・キリストのまことの教会が回復されたこと。

(四)モルモン経について。

(五)救いの計画について。私はどこから来たか。私はどのような者か。この世の生活が終わったら私はどこへ行くか。

私たちはこの偉大な宣教師のはたらきを助けるために何をすることができますか。私たちは「紹介制度」に従い私たちの友だちや知り合いの人々の名前を宣教師に知

らせることによって、宣教師のはたらきを助けることができます。この「紹介制度」は教会の幹部の方々が私たちに実行するように言っておいでになることであって、また主なる神さまが私たち一人一人に「汝の隣人を教えよ」とお言いになっていることであります。このことがどうして宣教師のはたらきを助けるのでしょうか。世の中には、私たちの教会と福音についてまちがった知識をもっていたり、ほとんど知っていない人々がたくさんあります。ほんとうのことを知らずに消すことのむつかしい敵意や疑いの念をもっているかも知れないし、またはこの忙しい世の中で多くの人は多忙なために私たちの教会のことを耳にするいとまがなかったり、または単にこれまで聞いたことがなかったかも知れません。もしもあなたがこれらの人々に私たちの教会のことを紹介するならば、これらの困難の多くを除くことができます。あなたの友だちや知り合いの人々は、あなたの生活にあらわれている福音の模範を目に見ることによって、宣教師のことばをもっと受け入れるこころになり、宣教師の言うことに耳をかたむけるにちがいありません。始めから友好的なふんい気がつくられると、宣教師は家族の人々の全部に会うことができ、また宣教師自身のあかしを告げる機会があります。これは私たちの力でできる立派な仕事であります。それですから宣教師に機会を与えて下さい。そのとき宣教師は「みたま」の力で自分のあかしを告げ、福音の諸原則を教えることができます。

ついさきごろまで、私たちはみな少しも福音のことを聞かずに、いろいろな町の通りをあるいていました。ところが今は、この大きなめぐみが多種多様な方法で私たちの生活に入りこんでいます。あなたの隣人、あなたの友人、あなたの行く肉屋さん、あなたのところへ来る郵便屋さん、またはバスの中でとなりにすわり合わせた人、これらの人々は福音を聞くために主なる神が準備をしておいでになる人々であるかも知れません。ヘンリー・D・モイル副管長は昨年十二月にパリでお話をなさったとき「もしあなたがたが、福音のことばに興味を示す人々をみつける機会を油断なく見張っているならば、主はほとんど毎日誰かをあなたのところに送り、この人にあなたから教会の話をおさせになるにちがいない」と会員にお言いになりました。

もしも「紹介制度」に従って、あなたの友だちや知り合いの名前を告げることが、最初少々むつかしいと思えるなら、私たちはさきのヒーバー・J・グランド大管長のすばらしいことばを提供します。「**何ごとでも努力してつづけるならば容易にできるようになる。これはそのことの性質そのものがかわったからではなくて、われわれの力が増したからである**」。

〝会員一人一人はみな宣教師である〟

1860年6月6日、ヘンリー・テムペスト及び彼の2人の息子たちは、200人余りの団体と共にユタ州に向かって、ネブラスカ州のフロレンスを出発した。この一団の内でたった6人だけが幸運にも牛がひく幌車を入手することが出来たのである。ヘンリーと2人の息子さんは、その一団の43台の手車の1台を入手出来たことに感謝した。すべて3人の為の食物、食器、衣類及び寝具は、全部両輪の牛車の中におさめられてあった。彼らはユタまで数百哩の道を丘を上ったり降ったり手車をひいて歩かねばならないことを知っていた。

彼らが出発して、まだあまり遠く行かない内にヘンリーが病気になった。ロビンソン隊長は、彼の病気があまりひどいのでヘンリーとその息子たちはネブラスカに戻った方が最も好いと考えた。ヘンリーは如何に失望したことであろうか。彼は若しかして病気がよくならないだろうか、見る為に、もう1日、その一団の内に留らしてくれるように頼んだ。この世の如何なる望みにもまして彼は彼の車をひいて他の者と共に行けることを欲したのであった。

その夜ヘンリーはユタに行けるように援けて下さいと主に祈った。翌朝彼の病気は余程よくなった。彼はヤコブとヨハネの手車を手伝いながら旅を続けた。

その夜、キャンプする頃になった。開拓者たちは各自の車から品物を取り出した。そしてめいめい自分の仕事にたずさわった。彼らは火をおこし、何か食物を料理し始めた。それから又、明日の行進にそなえ、よく休む為に彼らは地上にベットをつくった。息子たちが働いた。ヘンリーは休んだ。

大きな体が細く脚の長い猟犬がキャンプにやって来た。その犬は一軒々々にキャンプをうろついてヘンリーと子供たちの作ったキャンプ迄来た。犬はそのあたりを嗅ぎ廻った後、我が家でもあるかの如くそこに横たわった。子供たちは喜んだ。彼らは犬と話したり又可愛がった。この一団の中で愛玩用の犬を飼うことは禁じられていた。食物は不足しており、働いて食物をかせぐ事の出来ない動物に与えることは出来なかった。

ヘンリーは或考えを持っていたが、それは素晴らしい理想であることが証明された。彼はあたりを探して綱や革紐を集めた。そして間もなくひきづなをつくった。ヘンリーがそのひきづなを犬にかけて手車に結びつけた時、犬は別に気にもしなかった。そして以前にそれをひいた経験があるかのようにひき始めた。

翌日犬は手車をひくのを手伝った。今や、この大きな犬は愛玩用でなく助手と認められたので留まることを許されたのである。ヘンリーテムペストとその息子たちは手車から彼らの食物を出して犬に別け与えた。彼らは如何にこの大きな猟犬を愛したことであろうか！

毎日々々如何に太陽が照りつけようと、或いは又風が吹こうと犬は手伝った。事実、この犬は数百哩のこの広原の大部分をこの手車をひっぱったのであった。ヘンリーは息子たちと共に歩いて行く力を祝福されたのであった。

凡そ3ケ月間、この手車をひっぱって歩いた後、彼らはソルトレーク市に到着したのであった。彼らはその住家を建てれる処へ来た時、如何に喜んだことであろうか！

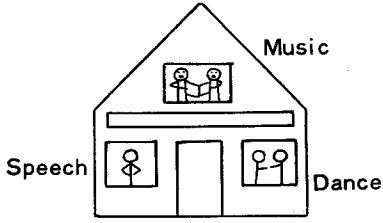
彼らが到着してから間もなく、この大きな、猟犬は消失して再び現われなかった。

Or — there was a boy who went walking one evening and he heard people singing, he heard dance music, and heard people reciting — as he came closer he decided it must be Thursday night, about 7 : 00 and what was it ?

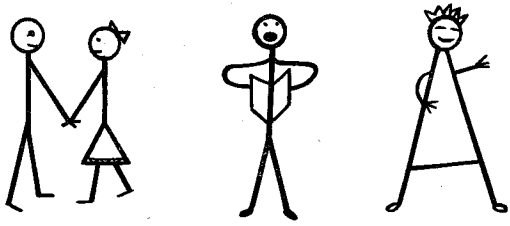
(Draw as you tell the story.)

Where was it ?

(Write Mormon Charch over the door)



MIA of course !



Like to dance ? Sing ? Give speeches or be in plays ?

Then come to M. I. A, (trace the letters) of picture.

Try writing Mutual Improvement Association with opposile hand than you usually write with — write it backwards and in one long word and ask if they understand. Tell them to attend M. I. A. and they'll understand.

MXUXTXUXAXLXIXMXPXRXOXVXEXMXEXNXTXAXSXSXOXCXI-XAXTXIXOXN. (cross out x's and what do you have ?)

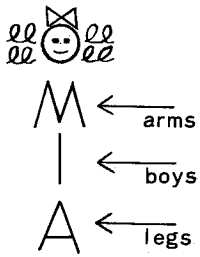
3. Discuss:
   A. Where did this story come from?
   B. Why do you believe the story is true?
   C. What is a journal?
4. Following directions:
   Students listen and do as teacher gives directions, e.g.:
   1. All boys stand up.
   2. Girls who attend High school raise right hand.
   3. Look to the left.
5. 1. s = voiceless: yes, what's, it's, talks, walks, asks, lesson, listen.
   2. z = voiced: these, those, Keys, reads, Tuesday in 1st week.)
6. To practice listening and to introduce M. I. A. read fairly fast the following story and when the students hear left, have them look left; right, look right; up and down etc:

   One day I opened *up* my window and looked *u*p into the sky. I looked to the *l*eft and to the *right*. I looked *dow*n and saw a long worm:

   What was the message the worm told?

Attention Missionaries:

Use your imagination to introduce M. I. A. Use ideas from street meeting stories, etc. to give new twist to M. I. A. introduction. Use pictures to tell a story describing M. I. A. activities. For example: tell about a girl who was sad because she wasn't complete (draw just a head) but she found a place to get arms (draw), a body (draw) and legs and then she became happy. where did she find a complete life? At M. I. A. of course...



3rd Week:

1. Discuss and practice reading third section of story as previously outlined.
   Have each student practice reading the section to the neighboring student—paired off in twos they should each be able to have a chance to read it in about 5 minutes or so. Tell them to pelp each other with pronounciating words etc.
   Have one or two read aloud for the class.
   With books closed dictate several sentences from story. When finished pass to next person and have seral read.
2. Tell of experiences of pets being useful etc...
   especially any Japanese Tales (check *We Japanese*)
3. Have slips of paper passed out at beginning of class. Have such things as: describe the dog in the story, what king of people does the story tell about, etc. Have students stand and talk about the subject.
4. Time: Draw clock on board.
   What time is it?

   9:00 It's nine o'clock. 9:00 It's nine-five.

   It's five minutes after nine.

   Have someone draw certain time; teacher draws clock and student answers. One student asks next in line "What time is it?", he answers as rapidly as possible and asks the next person. (without using on the hour time).

1. 2:30	5. 8:17	9. 6:15
2. 1:01	6. 3:24	10. 2:57
3. 10:55	7. 9:40	11. 8:32
4. 4:45	8. 12:30	12. 7:10

4th Week:

1. Read and discuss remaining part of story.
   Students should be prepared to read story flueetly with expression. For more advanced pupils have them tell (not read) story in English.
2. Discuss about pioneers; have someone read and study before hand from *What of the Mormons* Ch. 13 and be prepared to tell some part of it in English. Have someone tell in Japanese and someone in English—translating for eact other.

spell the word and student and or students pronounce; then teacher pronounces word and students spell; have a students pronounce, teacher spell; student spell, teacer pronounce.

Consonant sounds:

1. p — voiceless. pen, piece, play, speak, lamp, sharp, picture.
2. b — voiced. be, boy, blue, black, Betty, bedroom, blackboard.
   Listen and repeat after teacher. Close books, students number paper from 1 — 10. Teacher pronounces ten p and b words and students write ♯ ① if "p" word, ♯ ② if "b" word to check how well they hear the difference in these sounds.

2nd Week:

1. Read second section of story in English and Japanese.
   Talk about word and phrase meanings both in English and Japanese.
   Have whole class repeat after teacher line by line of this section.
   Divide class in several groups and have each group recite the section of the story.
2. Cardinal numbers.
   A. Say cardinal numbers from 1—10, then 10—1.
   B. Practice reading these numbers rapidly:
      3, 7, 1, 5, 9, 2, 4, 10, 6, 8, 5, 3, 9, 1, 7, 98, 31, 42, 80, 91, 18, 14, 19, 13, 15.
3. Consonant sounds: (repeat same type exercise as last week).
   1. th θ voiceless: thank, three, third, bath, month, sixth.
   2. th ð voiced: the, they, this, that, there, mother, brother, father.
4. Conversation:
   One student asks a question, next student answers.
   Second student asks next person etc.
   Questions such as:
      1. What day is it?
      2. How do you spell your name?
      3. Where are the keys?
      4. What kind of weather is it?
   Answer should be a complete sentence.
5. For added variety the hymn "Come, Come Ye Saints" could be discussed (Instructor July 1961, *What of the Mormons?* Ch. 13) and sung in English and Japanese.

The next day the dog helped pull the cart. Now the large greyhound *was considered a helper*, not a pet, so he *was allowed to stay*. Henry Tempest and his boys, *divided their food* from the cart with the dog. How they loved the big greyhound!

Day after day, whether the sun was hot or whether the wind blew, the dog helped. In fact, he pulled the handcart most of the way, hundreds of miles across the *plains*. Henry was blessed with strength to walk along with his boys.

After nearly *three months* of walking and pulling the cart, they arrived in Salt Lake City. How happy they were to get to the place where they could *start to build a home!*

A few days after they arrived, the big greyhound *disappeared* and was never seen again.

—— Told to Lorna C. Alder by Mrs. Henry Bodell of Herriman, Utah, granddaughter of Henry Tempest. *As recorded in Henry Tempest's journal.*

1st Week:

1. Introductions. Student introduces neighboring person (left) using conversation such as:
   My neighbor's name is _____.
   He (she) lives in _____.
   His (her) hobby is _____.
   He (she) is a _____. (student, working person, etc.)

(Let students use about 2 minutes to get acquainted before introducing.)

2. Read whole story in English and Japanese.
   Talk about difficult or catchy words or phrases and discuss definitions in English and Japanese. Have someone try using the word in a sentence.
   Have class repeat after teacher line by line of the first section of story.
3. Show and explain route of pioneers on U. S. map. Illustrate by pictures or drawings handcarts, covered wagons and companies.
   Discuss reasons the pioneers had for going to Utah. (Use *What of the Mormons?* in English and Japanese; church magazines, etc.)
4. Listening:
   Without use of books choosing any words from the story have teacher

The Story — **A Dog to Pull Their Handcart**

On June 6, 1860, *Henry Tempest* and his two sons left *Florence, Nebraska,* with a company of over two hundred people to go to Utah. Only six of these people were for*tuna*te enough to have wagons with o*xen* to pull them. Henry and the boys were thank ful to have one of the 43 ha*nd car*ts in the company. All the food, dishes, clothing and bedding for all three of them was in their t*wo-wheel*ed hand cart. They knew they would have to walk and pull the cart over *trai*ls, up hills and down,hundreds of miles to Utah.

They had not gone very far when Henry became ill. He was so sick that Ca*pta*in Ro*bin*son thought it would be best if Henry and his sons went back to Nebraska. How dis*appoi*nted Henry was! He b*egge*d the captain to let him stay with the company one more day to see if he would not get better. More than anything else in the world, he wanted to be able to p*ull his cart* and go on with the others.

That night Henry prayed and asked the Lord to help him get to Utah. The next morning he was much better. He traveled along trying to help Ja*me*s and J*oh*n with the cart.

When it was time to c*amp* that evening, the Pi*one*ers, took their things out of their carts. Each person had work to do. Th*ey start*ed *fire*s and cooked something to eat. They made their beds on the ground so they could rest and be ready to go on again. The boys worked; Henry rested.

A large gr*eyhound dog* came into camp. It ran from one group to another until it came to the little camp Henry and his boys had made. After it sn*iff*ed around, it lay down and seemed to be at home. The boys were de*light*ed. They talked to it and petted it. No pets were allowed in the company. Food was too sc*arce* to give to animals that did not e*ar*n it by working.

Henry had an idea, and it proved to be a wonderful idea! He began to look around to find r*ope*s and st*rap*s. Before long he had made a ha*rne*ss. The dog did not mind when Henry put the harness on him and hi*tche*d him to the handcart. He acted as if he had pulled carts before.

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円
教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円
モルモン経（新訳）……300円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
完成への道……200円
初等協会教科書……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
料理の作り方……50円
求道者教育法……120円

日曜学校用

旧約聖書物語……150円
家族の昇栄……200円
福音の実践……200円
奇しきみわざ……200円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
福音の紹介……200円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

我らは奉仕する……150円
生活の目標……150円
モルモン経研究ガイド……100円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円
素晴しき考え……200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
レクリェーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

聖徒の道

1958年3月17日
第3種郵便物認可第7巻第7号
振替口座 東京76226番
発行人兼編集人 ダワエン・N・アンダーセン
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14

支部所在地

北海道地方部

旭川 旭川市八条五丁目
MIA集会場 旭川公会堂
電話（二—一五四五）

室蘭 室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽 小樽市富岡町一ノ三五
電話（二—八二二四）

札幌 札幌市北二条西二四丁目

東中央地方部

群馬 高崎市並榎町二七五

甲府 甲府市山田町六三

松本 松本市同心町六一二

新潟 新潟市中大畑町五五七 金井方
電話（二—八六〇）

仙台 仙台市光禅寺通り二八
電話（五—〇八九七）

東京中央 東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二—四〇一〇・四〇八—三三〇四）

東京北 東京都豊島区高田本町二ノ一四八七
集会場 日曜学校 武蔵野ドレメ
MIA 徳川生物研究所

東京東 東京都江戸川区小岩町六—七八〇
電話（六五七—五二二三）

東京南 東京都大田区南千束町二四九
電話（七八二—六一三一）

東京西 東京都港区青山北町六ノ三四

山形 山形市八日市八五〇

横浜 横浜市港北区篠原町二九
（電話四九—八七七二）

西中央地方部

阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六五一—八三二七）

福岡 福岡市東薬院二ノ四〇

広島 広島市古田町古江四〇〇ノ三
（電話三—六一二五）

金沢 金沢市成瀬町二ノ四 野田方
集会場 農業センター

京都 京都市左京区松ケ崎桜木町一四

名古屋 名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三—四二一〇）

西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五—〇一四一）

岡町 大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二—一二三六）

岡山 岡山市北方七〇

三ノ宮 神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六—二六〇二）

柳井 山口県柳井市今市三九一

沖縄地方部

普天間 沖縄宣野湾村野嵩区三二八

那覇 沖縄那覇市松尾区一三九

建築部事務所

東京都港区青山北町六—三四（四〇二—四〇一〇）